



頭書
訓讀

庭訓往來本精註鈔全



抑歲の初代朝
拜者朔日元三
之次と以急ぎ
申す可き之處
人人子れ日の
遊は驅催さ被
る之間思ひ乍
延引り谷の鶯
檐の花と忌止
苑の小蝶は日
影は遊ふよ似

たり頗本意と
背は候い果ぬ
將又揚ら雀の
小引は勝負筈
懸小串之會草
鹿圓物之遊三
三九の手夾ハ
的等比曲節近
日打續之と
經營人

抑歲物初拜也。以朔日元之次

可急申之。急ぎ申す可き之處

遊之間。思ひ乍延引り谷の鶯

檐の花と忌止。苑の小蝶は日影は遊ふよ似

元月の元日の元三。元三は元日の元三なり。子日は正月の初日なり。影は遊ふよ似。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

たり頗本意と。背は候い果ぬ。將又揚ら雀の。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

たり頗本意と。背は候い果ぬ。將又揚ら雀の。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

たり頗本意と。背は候い果ぬ。將又揚ら雀の。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

たり頗本意と。背は候い果ぬ。將又揚ら雀の。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

たり頗本意と。背は候い果ぬ。將又揚ら雀の。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

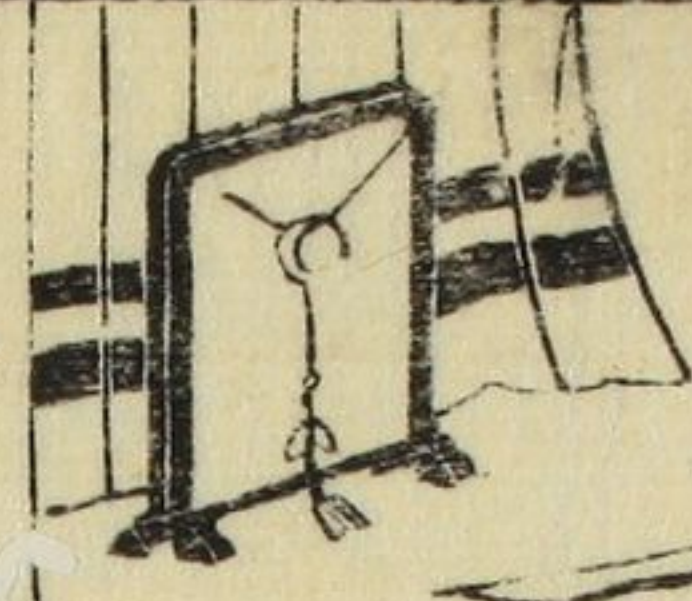
たり頗本意と。背は候い果ぬ。將又揚ら雀の。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

たり頗本意と。背は候い果ぬ。將又揚ら雀の。小引は勝負筈。懸小串之會草。鹿圓物之遊三。三九の手夾ハ。的等比曲節近。日打續之と。經營人。

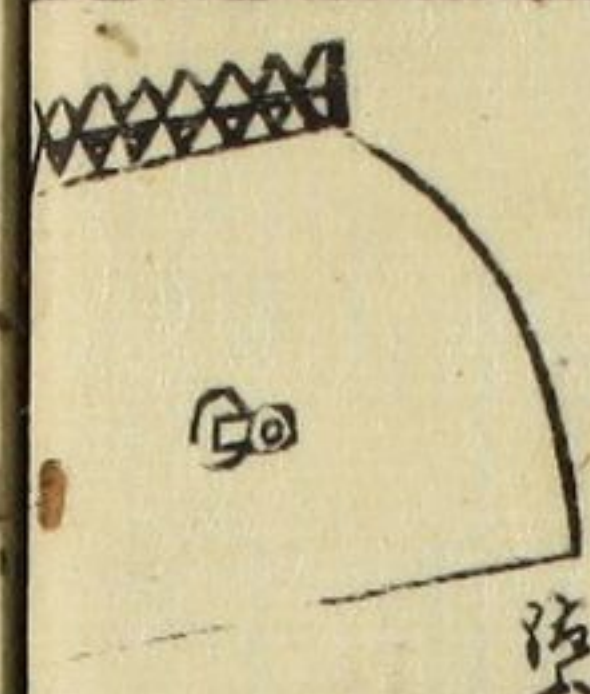
揚子



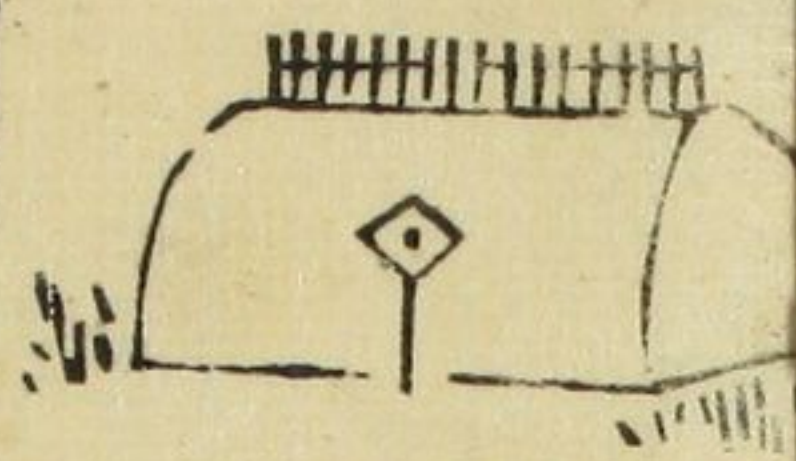
雀小弓



林公弓
一尺五寸
長
一尺五寸
長



小串



草



草



揚子 揚子と馬公池を射る向ふ串的なりを金堂と云ふ
是れ木比別の中を横す尺を射る所なり云々

雀小弓 雀小弓は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

林公弓 林公弓は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

小串 小串は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

草 草は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

揚子 揚子は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

雀小弓 雀小弓は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

林公弓 林公弓は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

小串 小串は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

草 草は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

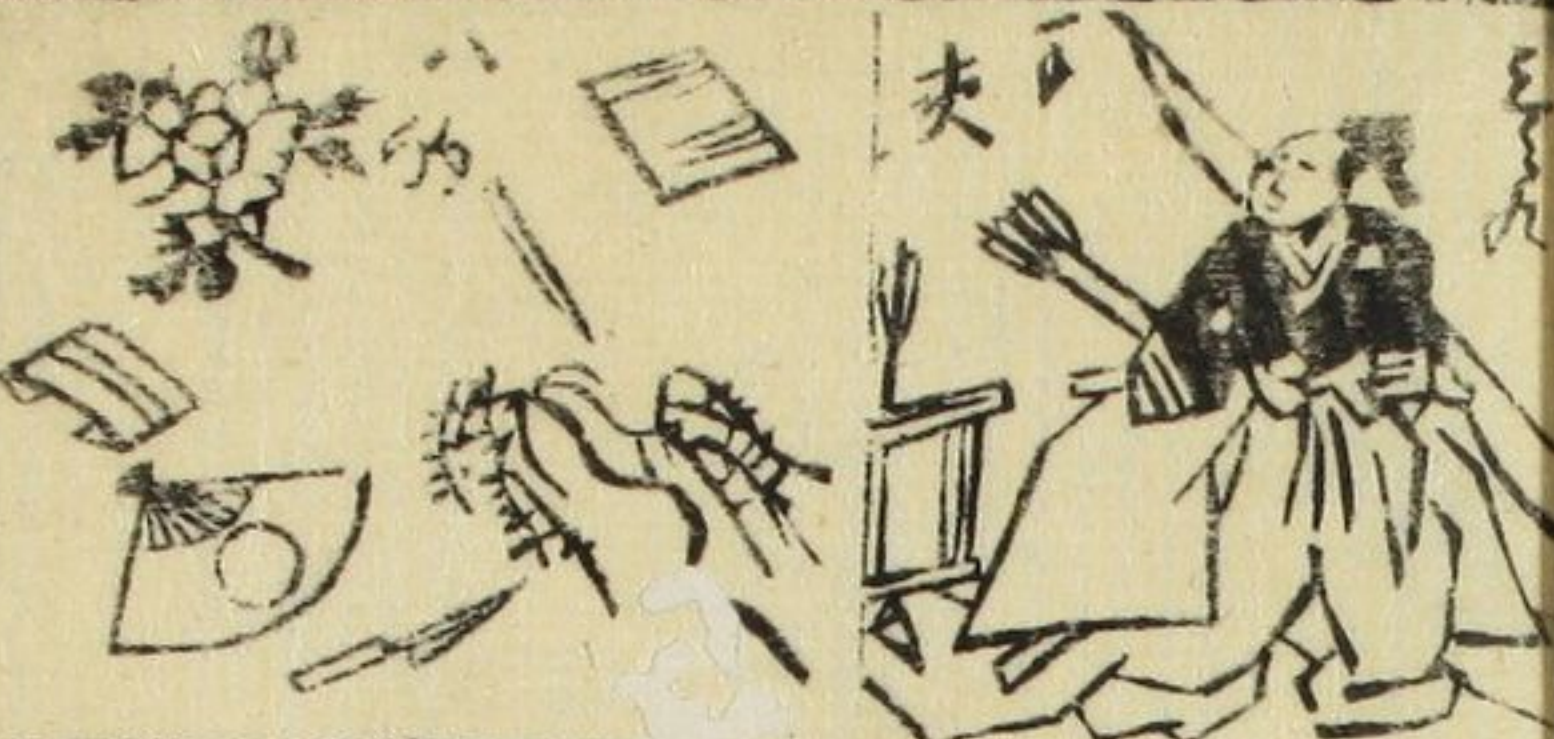
揚子 揚子は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

雀小弓 雀小弓は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

林公弓 林公弓は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

小串 小串は射る所の射を射る所なり云々
射る所は射る所の射を射る所なり云々

尋常の射手馳
挽比達者少
梅誘り有て思
食一立給て者
本望也心事多
一々雖參會之
次と期せんが
鳥委く腐る
能て不恐恐謹
言



正月五日
左衛門の尉藤
原の知貞
謹上

射巻の射巻は馬杖の射巻は

少く有て誘ひ引合をさすは

中身な淡いおの参會へ入

不能有て是にて後也。二

かろひはたのすておのす

ゆん一歩杖を著池の馬杖

ておりの射巻は六に

向かひぬ手前末方杖を

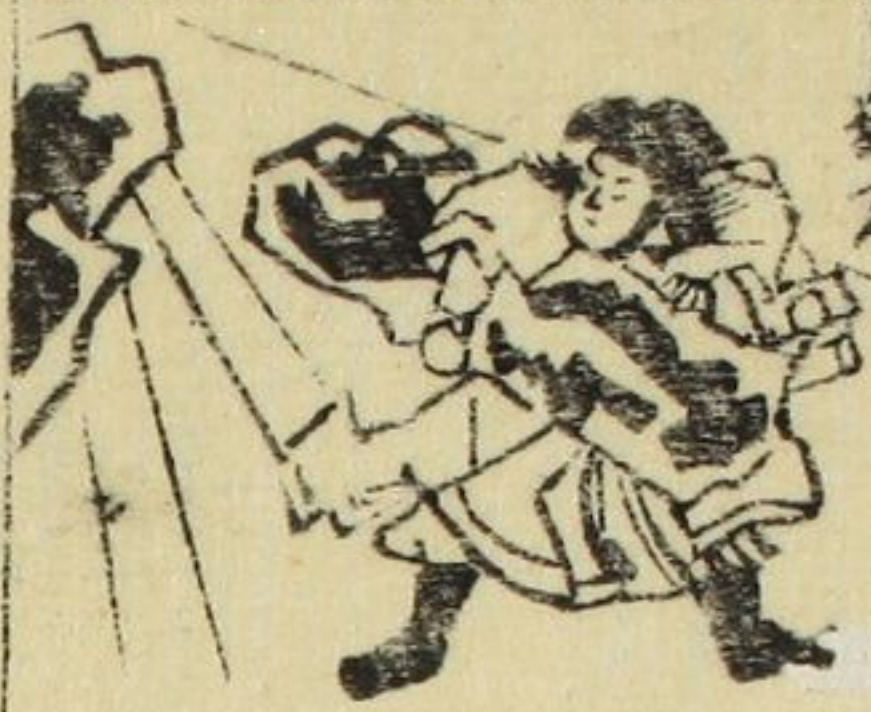
杖の扱ひはわらひ馬杖

はらひはらひはらひはらひ

旨 有射巻

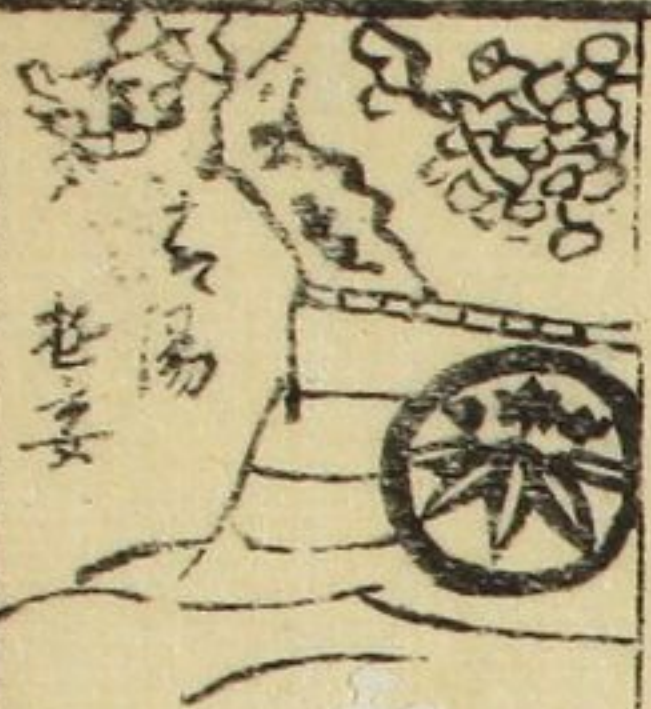
後上 有射巻

石見の手殿



改年の吉慶御
意に任せ
候ふ之條先以
目出度く覺
候ふ自他の嘉
幸千萬千萬

御芳札披見之
處青陽之遊宴
殊に珍重候
ふ堅束早く脱
け薄霞忽加
即拜仕と候
可き之處自他
の故障不慮之
至也



石見の手殿

一様上書書名の義は法を分る事なり
了之 一貫七足中四の字は安住なり
松平守下とあり下 一貫守下あり
相尋す奉る公長村より 一貫守下あり
内大臣深見公
御下りの世なり

改年吉慶御
意に任せ
候ふ之條先以
目出度く覺
候ふ自他の嘉
幸千萬千萬

改年吉慶御
意に任せ
候ふ之條先以
目出度く覺
候ふ自他の嘉
幸千萬千萬

御芳札披見之
處青陽之遊宴
殊に珍重候
ふ堅束早く脱
け薄霞忽加
即拜仕と候
可き之處自他
の故障不慮之
至也

御芳札披見之
處青陽之遊宴
殊に珍重候
ふ堅束早く脱
け薄霞忽加
即拜仕と候
可き之處自他
の故障不慮之
至也

御芳札披見之
處青陽之遊宴
殊に珍重候
ふ堅束早く脱
け薄霞忽加
即拜仕と候
可き之處自他
の故障不慮之
至也

御芳札披見之
處青陽之遊宴
殊に珍重候
ふ堅束早く脱
け薄霞忽加
即拜仕と候
可き之處自他
の故障不慮之
至也

御芳札披見之
處青陽之遊宴
殊に珍重候
ふ堅束早く脱
け薄霞忽加
即拜仕と候
可き之處自他
の故障不慮之
至也

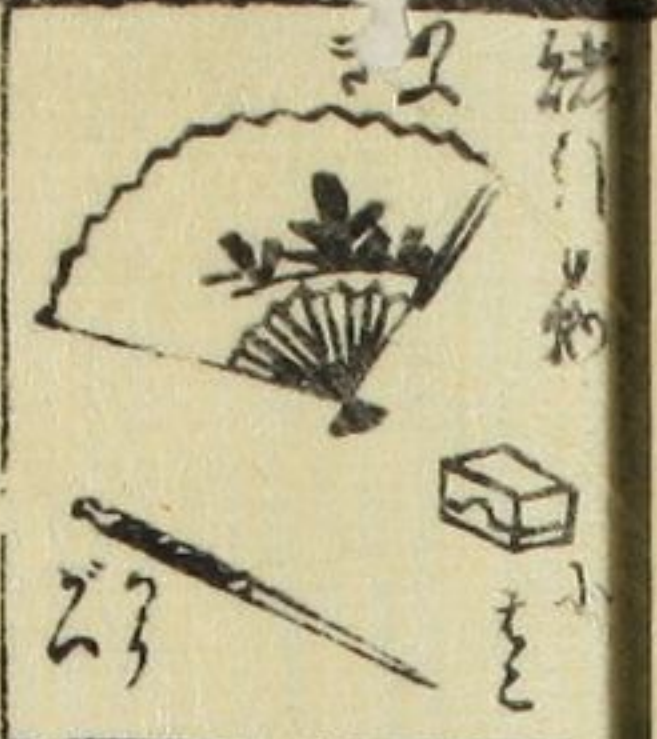
御芳札披見之
處青陽之遊宴
殊に珍重候
ふ堅束早く脱
け薄霞忽加
即拜仕と候
可き之處自他
の故障不慮之
至也

基月
太子守中石
三才以用之



正月六日

石見の守中石
謹上
源左衛門の尉
殿



面輝之後中絶
良久遺恨山
の如く何の時
意霧と散と
可けん哉併胡
越と隔つるに
似たり猶以千
悔千悔
柳醍醐雲林院

文
意

石見の守中石
太子守中石
三才以用之
正月六日
石見の守中石
謹上
源左衛門の尉
殿
石見の守中石
太子守中石
三才以用之
正月六日
石見の守中石
謹上
源左衛門の尉
殿

石見守中石

源左衛門の尉

石見の守中石
太子守中石
三才以用之
正月六日
石見の守中石
謹上
源左衛門の尉
殿

源左衛門の尉

源左衛門の尉

源左衛門の尉

源左衛門の尉

花濃香芬芬

て白已盛

也嵯峨吉野の

山櫻開落條と

文へ其楸繁

點止難者此

節也華徒然と

而光陰と送

らん哉

花の下れ好士

諸家の狂人雲

の如く霞に似

る遠所之花

者衆物僮僕合

期難先逝

隣之各花出行

之儀と以思ひ

立つ事小候ふ

左道之様為り

と雖異體之形

と以明後日御

同心候と者本

望也

花濃香芬芬

野山櫻。因縁。実。楸。繁。花。落。條。と。文。へ。其。楸。繁。

點止難者此

節也華徒然と

而光陰と送

らん哉

花の下れ好士

諸家の狂人雲

の如く霞に似

る遠所之花

者衆物僮僕合

期難先逝

隣之各花出行

之儀と以思ひ

望也

八



連哥の宗匠和

歌の達者一兩

非車御誘引有る

可一其次と以

詩照句之詠同

く所望小候ふ

破籠小竹筒筆

者是自隨身と

可一硯懷紙筆

者懷中せ破

可一歎如何心

底之趣紙上小

盡一難く候ふ

併參會之次と

期以不具謹言

雲林境花

こゝろをきり 野

その中北

はかばか

や

や

や

や

所記更定新注金

此の者より一たびふ形たどるをく西のくは遠るをく人なりとあり
左と年切るとく河一美船ハ船ハ舟のくくくくたへ馬車ふふふ

連歌宗匠和歌達者

破籠小竹筒筆

者是自隨身と

可一硯懷紙筆

者懷中せ破

可一歎如何心

底之趣紙上小

盡一難く候ふ

併參會之次と

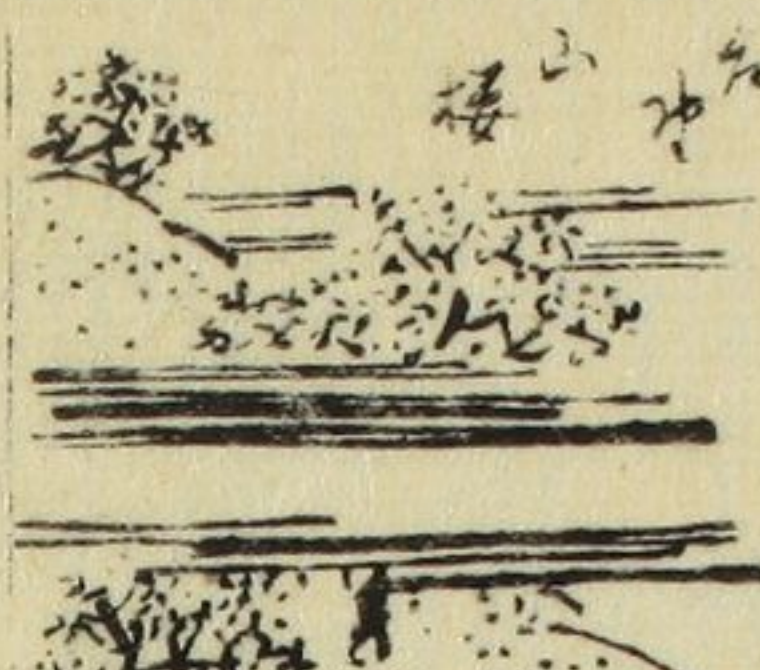
期以不具謹言

雲林境花

延川主東清注妙

大意

て久し



二月廿二日

彈正比忠三善

謹上

大監物殿

大監物殿

二月廿二日

彈正比忠三善

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, containing various characters and possibly a signature.

是自申さ令め

人と欲する之

處透而恩賜

預て御同心之

至て多少之嘉

會也抑花の下

之會の事花鳥

風月者好士之

學の所詩歌管

絃者嘉齡延年

之方也御勸進

大監物殿

二月廿二日

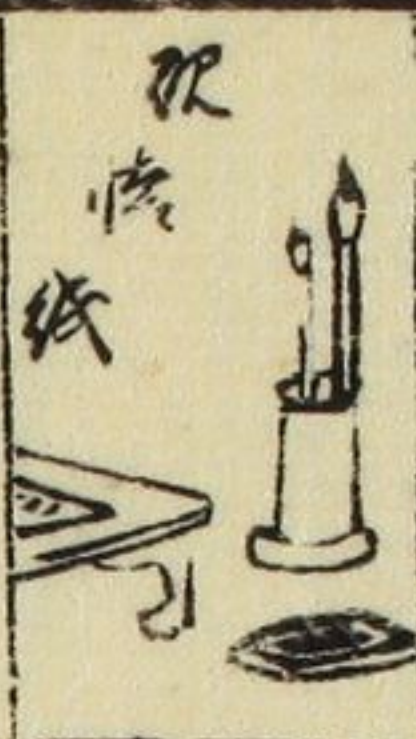
彈正比忠三善

大監物殿

彈正比忠三善

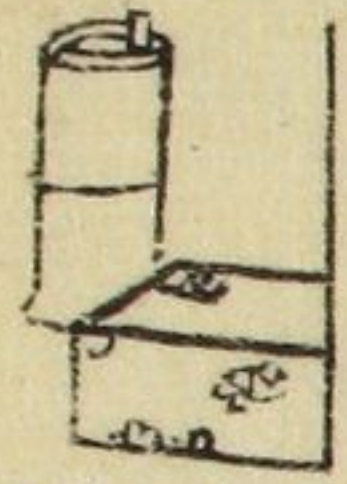
Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, containing various characters and possibly a signature.

之體本懷不相
叶ハ候ハ者哉



後園庭前之花
深山叢樹之櫻
誠不以開敷の
最中也若今明
之際暴風霖雨
有ら者無念之
事也同く者
時々急ぎ度く
存せ令ひ
也

和歌者人丸赤
人之古風と仰
と難未長歌
短歌旋頭混本
折句皆冠之風
情輪迴傍題打
越落題之體と
究め未
竹小
侍



者哉

多分と云ふ人にて一せふ越年月の多さ中より
たれ令のまをえ 巧秋後後八箇の秋後後
秋後後八箇の秋後後八箇の秋後後八箇の秋後後
おのゝ秋とは方より物よりをり候よりのまよりをり

後園庭前之花
深山叢樹之櫻

誠不以開敷の
最中也若今明

之際暴風霖雨
有ら者無念之

事也同く者
時々急ぎ度く

存せ令ひ
也

和歌者人丸赤
人之古風と仰

と難未長歌
短歌旋頭混本

折句皆冠之風
情輪迴傍題打

越落題之體と
究め未

竹小
侍

人よ似たるや
如く整犬之燈

と構ひ同
然而入敷の一

分小召 加え
ら被者殆後日

之耻辱と招く
下

人
賈

執筆發句賦物
以下才覺未練

之間當座定り
て赤面不及ぶ

可き歎聊用意
有る可き之由

承て候ひ詠ぬ
形之如く替古

致す可一公私
息心之間毛舉

不違ら不思議
謹言



後漢書後漢書後漢書

拓後自之駭侍

文の一種之備叙の例と起てある一紙と云ふ人

▲減らさると云ふ中にて申す人▲此の叙を之を要と云ふ

▲文の一種之備叙の例と起てある一紙と云ふ人▲顔る

執筆發句賦物

傳之間當座定り及赤面不及ぶ

可き歎聊用意有る可き之由

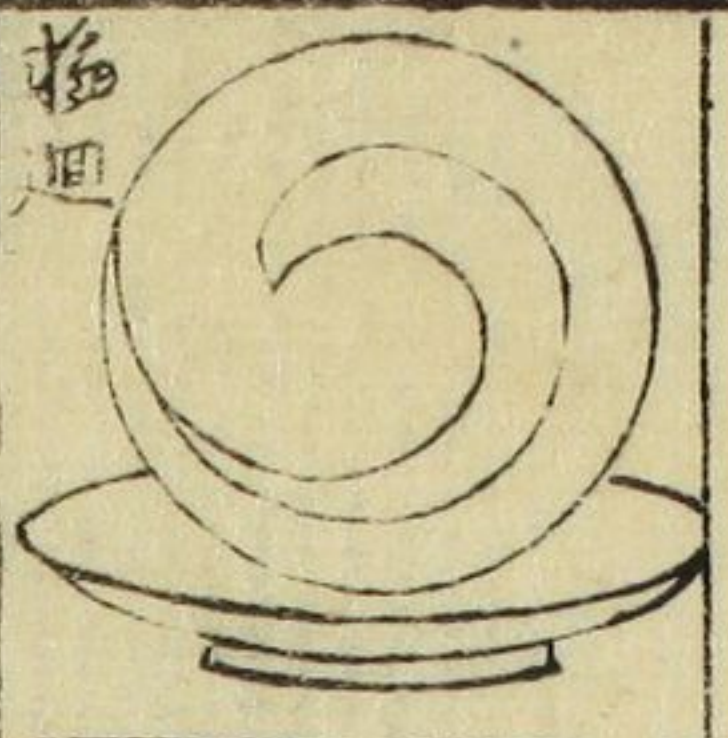
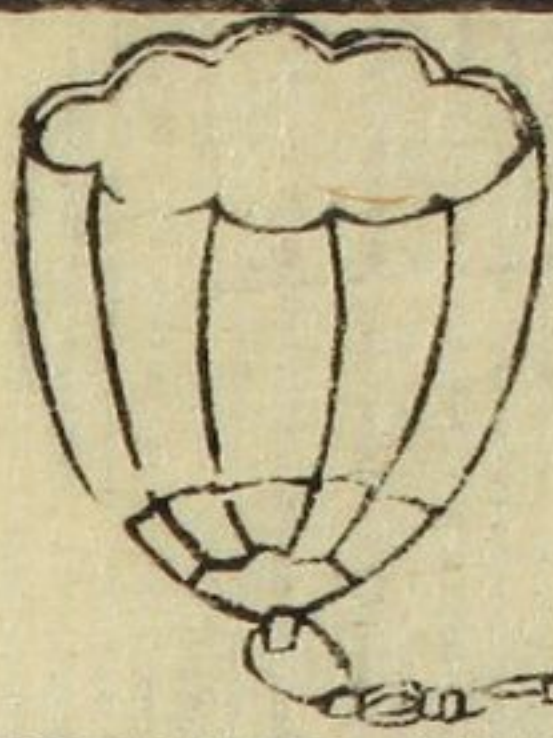
承て候ひ詠ぬ形之如く替古

致す可一公私息心之間毛舉

不違ら不思議謹言

大 意

吉冠



二月廿二日
監物の丞源

謹上
彈正忠殿
御返事

祝言今于於者
事舊て候と
雖猶以珍重珍
重慶賀日と追
ふて重置家門
年と迎へて繁
昌以自他際限
有る可く不

長門行末書

二月廿二日
監物の丞源
御返事
謹上
彈正忠殿
祝言今于於者
事舊て候と
雖猶以珍重珍
重慶賀日と追
ふて重置家門
年と迎へて繁
昌以自他際限
有る可く不

二月廿二日

監物の丞源

謹上
彈正忠殿

御返事

御返事
謹上
彈正忠殿
祝言今于於者
事舊て候と
雖猶以珍重珍
重慶賀日と追
ふて重置家門
年と迎へて繁
昌以自他際限
有る可く不

長門行末書

十三

早く参賀せ令
む可く候へ抑
御領入部相違
無き之條先以
神妙之由御感
候ふ也

之不就三四至
傍示の境階百
聊他所混亂
聊他所混亂
せ被可
不精廉之沙汰
と致さ被力之

條奉公の忠勤
也
厨梳飯相違無
く者早沙汰
人等に課せて
地下の目録取
帳以下に文書
齊例細法之注
文悉召進せ
ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

定む律抄に由御感
御領入部相違
無き之條先以
神妙之由御感
候ふ也

御領入部相違
無き之條先以
神妙之由御感
候ふ也

聊他所混亂
せ被可
不精廉之沙汰
と致さ被力之

之不就三四至
傍示の境階百
聊他所混亂
聊他所混亂
せ被可
不精廉之沙汰
と致さ被力之

條奉公の忠勤
也
厨梳飯相違無
く者早沙汰
人等に課せて
地下の目録取
帳以下に文書
齊例細法之注
文悉召進せ
ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

厨梳飯相違無
く者早沙汰
人等に課せて
地下の目録取
帳以下に文書
齊例細法之注
文悉召進せ
ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

地下の目録取
帳以下に文書
齊例細法之注
文悉召進せ
ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

帳以下に文書
齊例細法之注
文悉召進せ
ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

齊例細法之注
文悉召進せ
ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

文悉召進せ
ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

ら被呼さ也容
隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

隱之輩隱用之
族ハ罪科の爲

族ハ罪科の爲

耕作せ令り西
收れ期不越て
春込の既得と
願ふ可し

次小畝比事蕎
麥大豆小豆大
角豆粟麥黍稷
等畑山畠之乾
熟不随ひる米代
加地子に課し
可し毎年實檢
と逐くる之節

敢以自由之依
怙と存す可り
の事各別之作
事有る可り
不
奉行早く四方
小大堀と構一
其内小築地と
用意す可し棟
門唐門者斟酌

預春法既得
留山畑ハ地比の正公百以ハ修り
すしすのハ地比をさすこと

西以終比と心細く候はれを拵せし西社の方之ホの本比葉に
争へし春法既得ハ修り物敷をより上宿をさす候はれ

次小畝比事蕎
麥大豆小豆大
角豆粟麥黍稷
等畑山畠之乾
熟不随ひる米代
加地子に課し
可し毎年實檢
と逐くる之節

角豆粟麥黍稷
等畑山畠之乾
熟不随ひる米代
加地子に課し
可し毎年實檢
と逐くる之節

乾熟不随ひる米代
加地子に課し
可し毎年實檢
と逐くる之節

實檢と節
敢以自由之依
怙と存す可り

敢以自由之依
怙と存す可り
の事各別之作
事有る可り

奉行早く四方
小大堀と構一
其内小築地と
用意す可し棟
門唐門者斟酌

早稲方接
比棟門唐門者斟酌

早稲方接
比棟門唐門者斟酌

比棟門唐門者斟酌

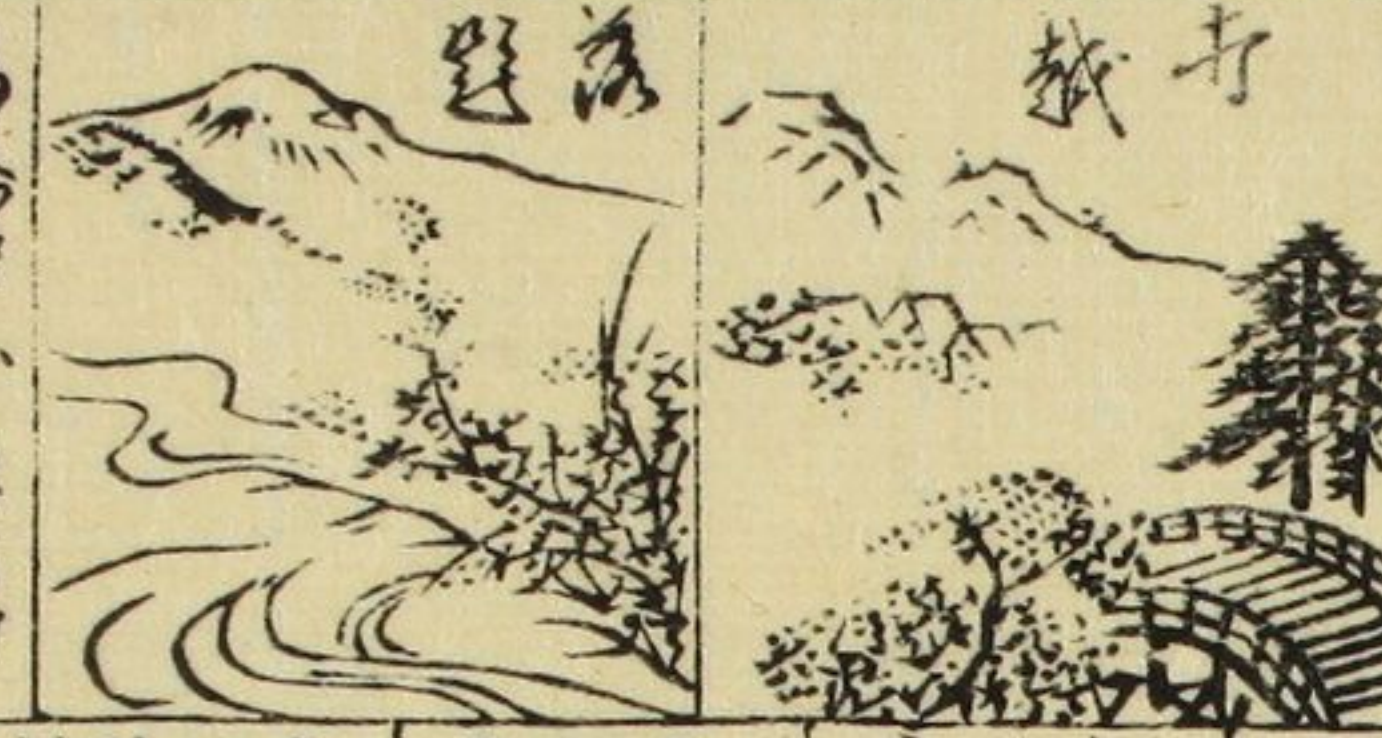
比棟門唐門者斟酌

の儀有り平門
上土門藥醫門
之際於之を
相計ふ可

寢殿者厚菅葺
板庇の廊中門
渡殿者重板葺
侍御厨會所圍

爐裏之間學文
所公文所政所
膳所臺所醫殿
局部屋四阿屋

棧敷健兒所者
葦宜葺に支度
十可也



南向小者笠懸
の馬場と通

門上土門藥醫門之際於之を相計ふ可

寢殿者厚菅葺板庇の廊中門

渡殿者重板葺侍御厨會所圍

爐裏之間學文所公文所政所

膳所臺所醫殿局部屋四阿屋

棧敷健兒所者葦宜葺に支度

十可也

南向小者笠懸の馬場と通

棧敷健兒所者葦宜葺に支度

十可也

南向小者笠懸の馬場と通

棧敷健兒所者葦宜葺に支度

埒と結て令り
同く的山城築
く可一東面小
者蹴鞠之坪を
構一四本懸板
植々々彼泉水
立石築山遺水
眺望小住せ
方角小隨て禁
忘無之之様之
と相計一可一
容殿に相續て

檜皮葺の持佛
堂禮堂と立つ
可一菴室休所
者先假葺也傍
又土藏文庫と
構ふ可一其中
間ハ屏也後苑
の樹木四壁の
竹前葺の茶園
同く調一殖の
可き也仰せ下
さ被り之條條

惣馬場人往つ因一築的立案

園一相續也條也條也

保水立石築山遺水

方角小隨て禁忘無之之様之

と相計一可一容殿に相續て

可一菴室休所者先假葺也傍

又土藏文庫と構ふ可一其中

間ハ屏也後苑の樹木四壁の

竹前葺の茶園同く調一殖の

可き也仰せ下さ被り之條條

庭園行苑精進

庭園行苑精進

御政所殿



仰せ下されば
條條具承

候ひ畢ぬ聊
等閑と存す可

不候ふ也
御下文御教

書嚴重之開入
部の使節異儀

無く彼所不
遵行せ令め

候ひ畢ぬ

吉書ハ吉日良
辰と撰行せ令

耕作業の最
中也地下の文

書事或紛失
或失隊錯亂之

由沙汰人等構
申以不依て

麻言社及精注金

御政所殿

吉書ハ六條之産令修職也
本年三月同日極天
此方

彼御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

御下候具承
御下候具承

尾川主

七

延引之條恐と
入候事之
實否又土貢之
員數等尋ね
て追て注進申
す可也

次小作事者
梁柱長押棟木
板敷の材木者
虹梁爲る之間

抽取の爲小訓
之令候し
ぬ門乃冠木
の將東唐居敷
板鼠走方立
雲臂木懸魚幕
侯の木并小鴨
柄籠居垂木木
舞破風闌板飛
櫓木田木縁の
短柱簀の子唐
垣透塙柴垣築

貢有教事の被進す可也

古き教事... 民百... 耕... 新... 文...

次此事者... 杉... 梁... 柱... 長押... 棟木

板敷材木者... 爲... 虹... 梁... 爲... 之... 間

取... 令... 候... し... 冠... 木... 扉... 籠... 居... 垂... 木

唐... 居... 垂... 木... 舞... 破... 風... 闌... 板... 飛

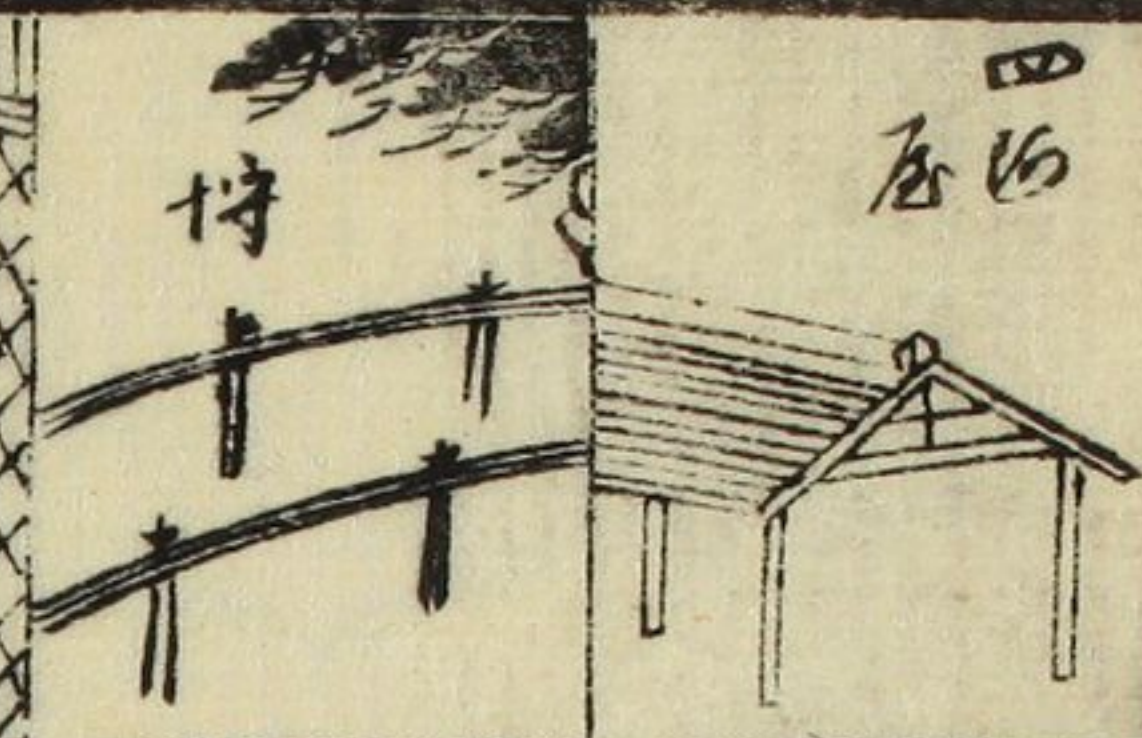
櫓... 木... 田... 木... 縁... の... 短... 柱... 簀... の... 子... 唐... 垣... 透... 塙... 柴... 垣... 築

短柱簀の子唐垣透塙柴垣築

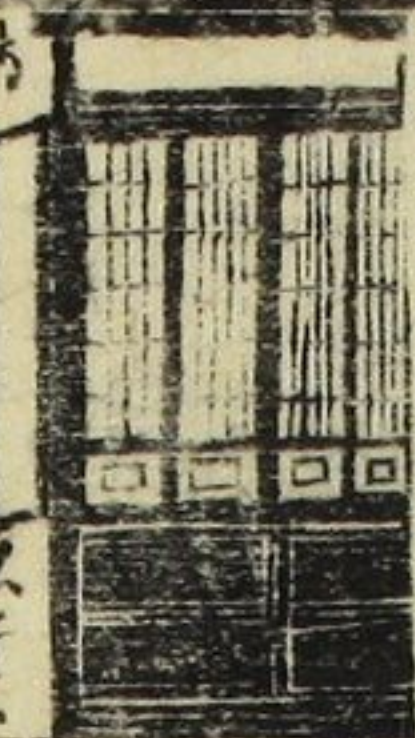
櫓木田木縁の

短柱簀の子唐垣透塙柴垣築

四
居



形
物
呼



山
造
り
け
分
鐘

鉛
新
并
小
造
作
の
釘
金
物
者
炭
鐵
と
用
意
一
鍛
冶
と
巧
一
居
え
造
り
今
り
候
ふ
也
木
工
の
寮
修
理
職
の
大
工
小
仰
せ
巧
匠
と
召
し
下
さ
被
釘
立
礎
居
柱
立
積
鈍
棟
上
之
吉
日
者
陰
陽
の
頭
小

一
辰
訓
行
分
精
海
金

棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

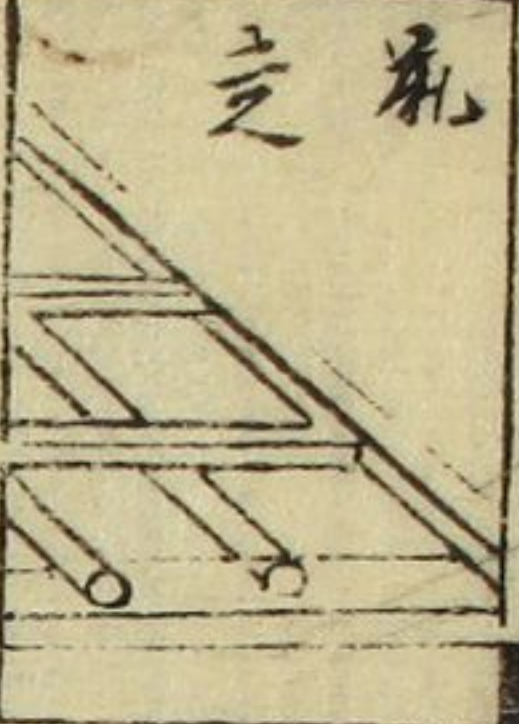
一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一棟上之吉日者陰陽の頭小
一辰訓行分精海金

一
辰
訓
行
分
精
海
金

一
辰
訓
行
分
精
海
金

之 氣



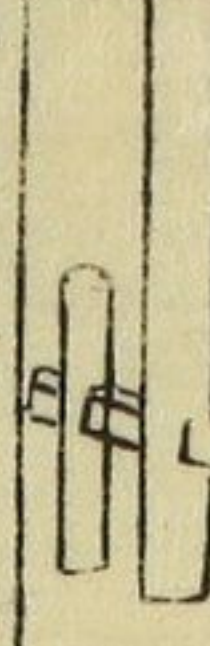
三月十三日

左衛門の尉橋

進上

玄蕃の九殿

方九



久く室内と致

せざるの間不

審千萬何條の

御事候ふ哉柳

御領興行之段

黎民之寵朝

夕の煙厚一

姓之門小東西

の業繁仁

政之甚致

す所也賞罰嚴

重ホ一て人之

堪否と知て理

非分明に

物之奸直と糾

以者萬民の歸

此の如く... (Small vertical text on the right margin)

日向の尉橋

進上玄蕃の九殿

一、此の尉は三月進上... (Small vertical text on the left margin)

久く室内と致

せざるの間不

審千萬何條の

御事候ふ哉柳

御領興行之段

黎民之寵朝

夕の煙厚一

姓之門小東西

其川注本首註也

まゝ所也心よ
寛宥之扶と存

一強て其他係
と好まざる者

所領證之基
也毛と吹て過
急之疵と求む

可くも



凡先日仰せ
被る市町の興

行廻船着岸の
津并小舟山漁

捕河狩野牧の
事定て遵行せ

ら被る歟市町
者辻子小路を

通一見世棚と
構え今の絹布

之類贄の菓子
賣買之便有る

の様相計らハ
被可き也

多之底

一郡民と云ふと云一郡種厚ハ
極の比さるる民家多不却
之に於ては

一東西業繁ハ其
一西に於ては業ヲ
一東に於ては業ヲ

一悪人と云ふハ
一善人と云ふハ

一此の地は
一その地は

一凡先日仰せ
被る市町の興

凡先日仰せ

被る市町の興

行廻船着岸の

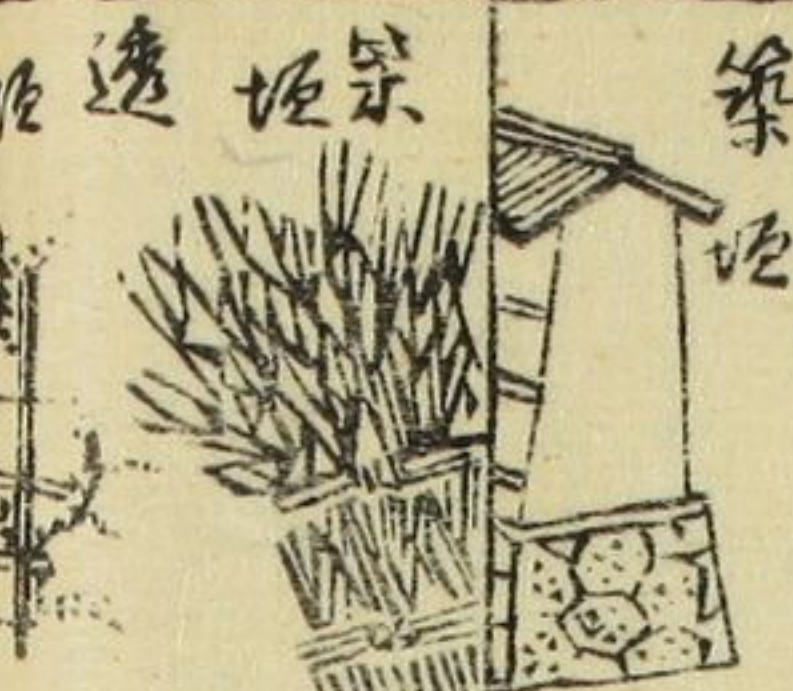
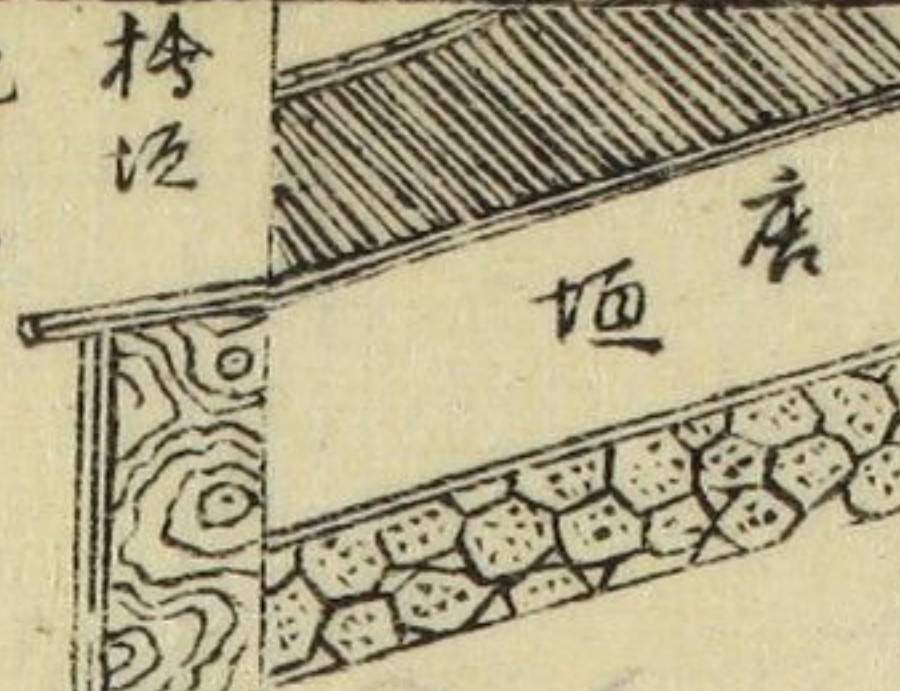
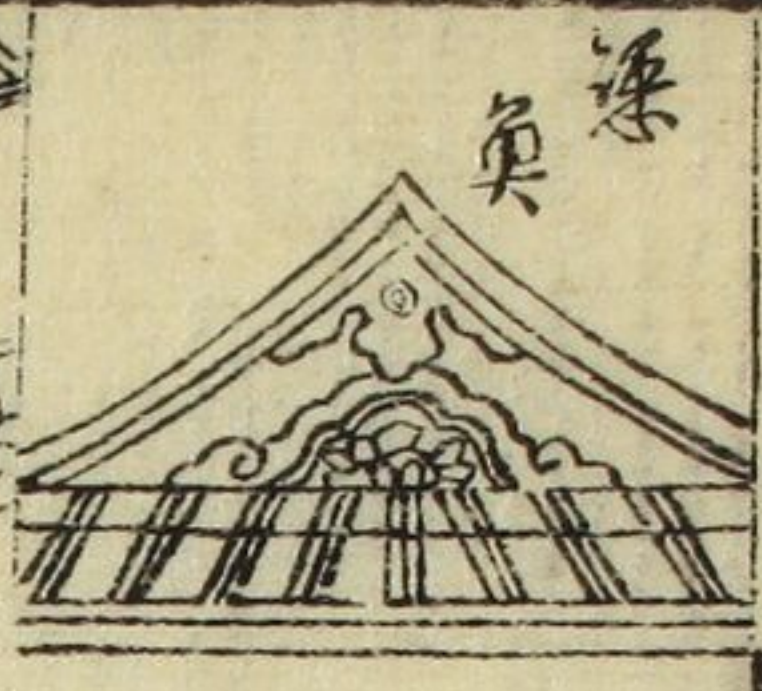
津并小舟山漁

捕河狩野牧の

事定て遵行せ

ら被る歟市町
者辻子小路を
通一見世棚と
構え今の絹布
之類贄の菓子
賣買之便有る
の様相計らハ
被可き也

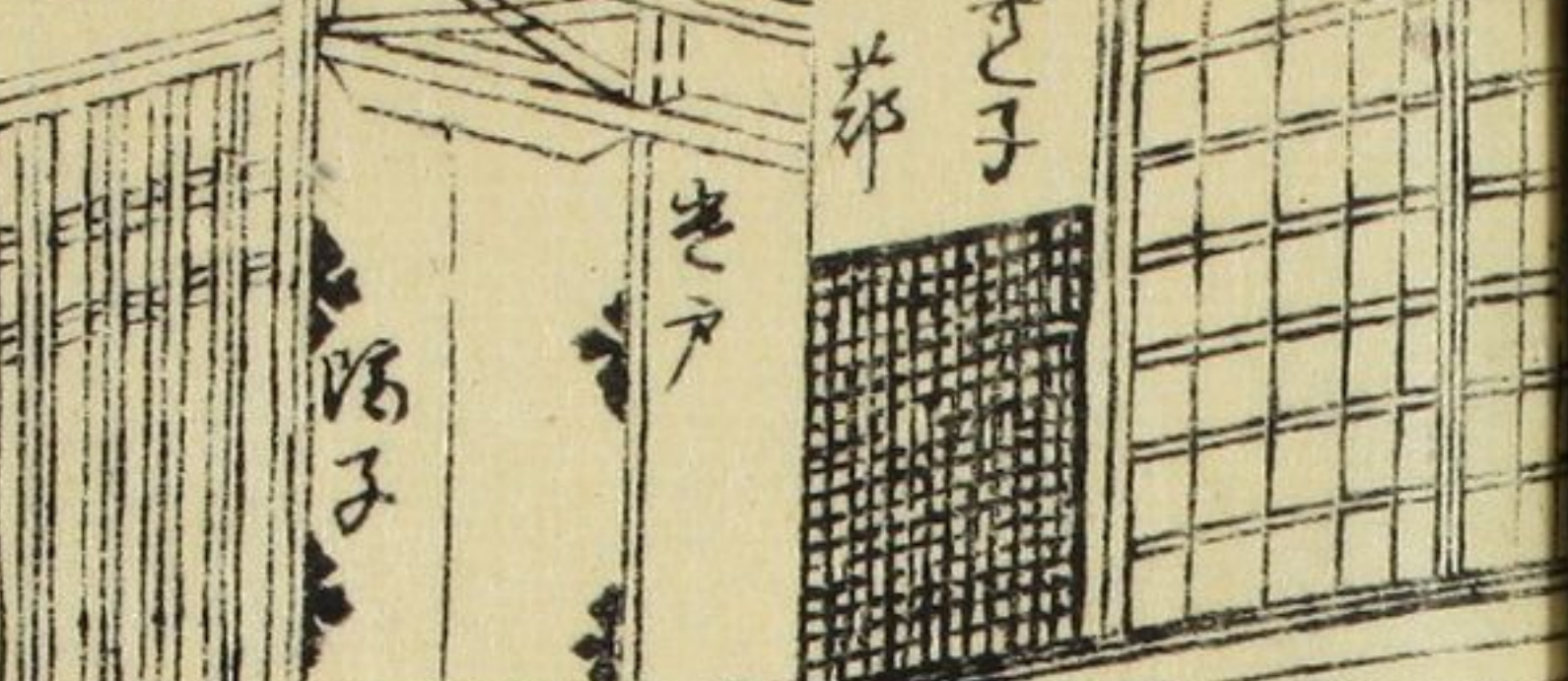
三十一 庄大書五少



考之令假御卿公身傍孤柑橙公身付在深及谷の茶屋に深
為の以暖儀の成物師之委長公等何て来侍と云々
物と相せり世乳て物生と物
物と相せり世乳て物生と物
物と相せり世乳て物生と物

今之屏風の裏紙も昔の紙と押さるる候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

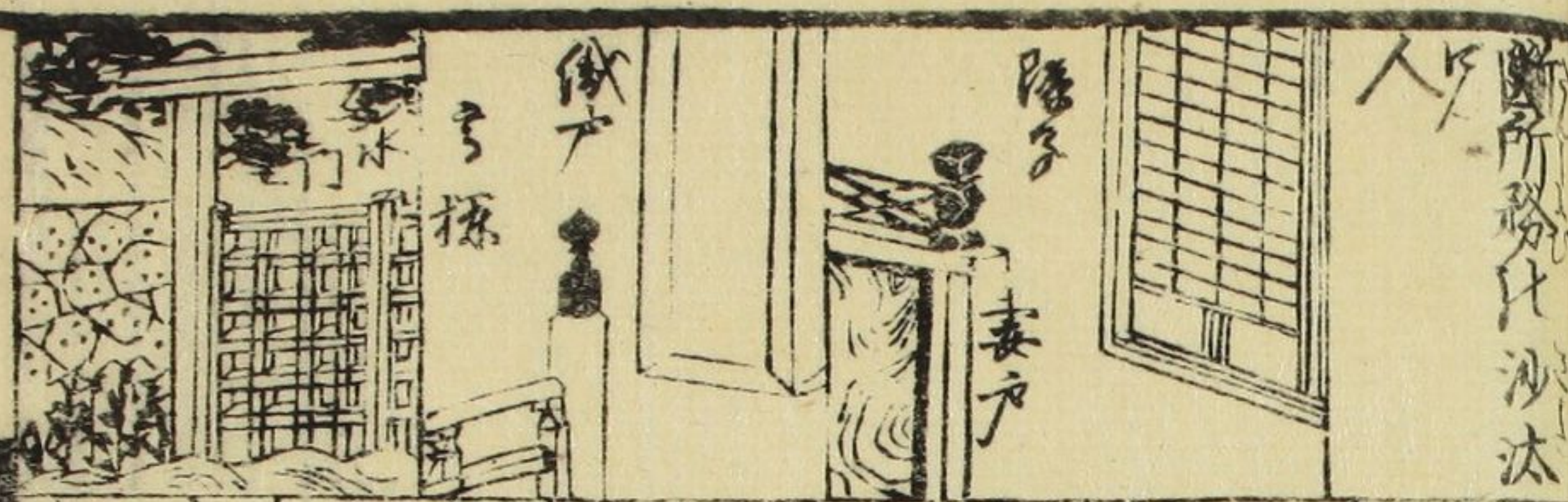


并小習師陰陽師繪師佛師摺
縫物師武藝相
撲之族或禪律

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

の兩曾聖道淨
 土比碩學顯教
 室宗比學生修
 驗の行者効驗
 の貴僧智者上
 人紀典仙經の
 儒者明法明經
 道の學士詩歌
 以宗匠管絃の
 上手引聲短聲
 の聲明師一念
 及念比名僧檢



支信を道淨土碩學顯教室宗

學生修驗の行者効驗の貴僧智者

上人紀典仙經の儒者明法明經

道の學士詩歌以宗匠管絃の

上手引聲短聲の聲明師一念

及念比名僧檢

此中言佛首在... 此中言佛首在... 此中言佛首在...

此中言佛首在... 此中言佛首在...



玄

卯月五日

前の米女乃正

中務の正殿



竹下は破る之

旨畏し拜見仕

度比御事書に

就て藝才七座

之店諸國の高

人旅客の宿所

運送賣買の津

悉遵行せ令り

候ふ交駈合期

公私の潤色

何事之小如

らん哉

定御比公事臨

辰言行々米法金

かなのそとより、概細小言、
一七日辰より、今日、
いふ、
いふ、
いふ、

卯月五日 米女乃正

中務の正殿

卯月五日の美、
中務の正殿、
唐名、
唐名、

破竹下、
旨畏し、
度比、
就て、
之店、
人旅、
運送、
悉遵、
候ふ、
公私、
何事、
らん、
定御、

度比御事書に

就て藝才七座

之店諸國の高

人旅客の宿所

運送賣買の津

悉遵行せ令り

辰言行々米法金

七

時ノ課役月迫

の上分節季の

年預更ふ道避

ま可く不る

歟凡京北町人

濱の商人鎌倉

の訛物宰府の

交易室兵庫の

船頭淀河尻れ

刀禰大津坂本

比馬借鳥羽白

河の車借泊泊

の借上湊湊の

替銭浦浦の間

九同く割符を

以之を進上

做載に任せて

之と運送す



次小大舎人の

綾大津の練貫

六條の添物猪

北比紳六治比

金。集。ま。り。預。め。る。上。道。程。花。

京。所。人。濱。商。人。鎌。倉。訛。物。宰。府。

交。易。室。兵。庫。の。船。頭。淀。河。尻。れ。

刀。禰。大。津。坂。本。比。馬。借。鳥。羽。白。

河。の。車。借。泊。泊。の。借。上。湊。湊。

替。銭。浦。浦。の。間。九。同。く。割。符。を。

以。之。を。進。上。以。之。を。進。上。

做。載。に。任。せて。之。と。運。送。す。

次。小。大。舎。人。の。綾。大。津。の。練。貫。

六。條。の。添。物。猪。北。比。紳。六。治。比。

後。大。津。津。津。六。條。津。物。猪。然。

後。大。津。津。津。六。條。津。物。猪。然。

建川生衣書屋

七

布大宮比 緋鳥
 丸の鳥帽子室
 町比 伯樂手島
 庭壁我土器奈
 良刀高野利刀
 大原の薪小野
 比炭



小紫比 黛城敷
 比 扇仁和寺の
 眉作好小路比
 針鞍馬の木芽
 漬醜醜の鳥頭
 布東山の無西
 山比心太此外
 加賀胡丹後精

但。比。布。太。須。為。丸。鳥。帽。子。
 室。所。伯。樂。手。島。庭。壁。我。土。器。奈。
 良。刀。高。野。利。刀。大。原。の。薪。小。野。

比。炭。梨。子。松。本。

小。紫。比。黛。城。敷。比。扇。仁。和。寺。の。

眉。作。好。小。路。比。針。鞍。馬。の。木。芽。

加賀胡丹後精

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋



備後酒和泉酢
 若狭の椎宰府
 此栗宇賀の昆
 布松浦比類夷
 の鮭奥の漆筑
 紫穀或異國唐
 物高麗比珍物
 雲比如く霞段に

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

備前乃出雲鐵
 中比鐵越後の
 防精近江鮎波
 興土佐材木安
 藝の博能登金
 河内鍋

似
うり



漢捕

交易賣買之利

潤者四條五條

之辻不超過

往來出入之

貴賤者京都鎌

倉小異ら不凡

御領豊饒小而

甲しの人富

せ令り屋作家

風尋常小而上

下已神妙也急

ご御下向有て

高覽有る可き

歟須て御遊ひ

の夫力者と催

進せん也忠

忠謹言



辰言往牙精三金

雲保素 山口系所の山あり中 宰府置の御所は

常の一年に二夜あるの事切の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

大意

今令り御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

交易の御所は 山崎の御所は 山崎の御所は

辰言往牙精三金

七

見苦敷く資具
又散散之式不
使小也御扶持
小預ら不ん者
今度の耻辱を
隠し難し助成
せし被者生前
之大幸也
臨時之客人纏
頭之外他無
平爾代經營固
章之至也然也

無心之所
供ふと雖慢慕
同幕中高麗
端の畳深縁乃
差延屏斥几帳
翠簾恩借
被者人夫と以
之と送て賜ふ
可

此外打鉦子金
色提音漆の鉢

不取也扶持去後後今為念
辱被御成老も生を之大幸也

臨時之客人纏頭之外他無
平爾代經營固章之至也然也

他乘朱徑更因章之至也然也

後幕中高麗端の畳深縁乃

差延屏斥几帳翠簾恩借

被者人夫と以之と送て賜ふ

可

此外打鉦子金色提音漆の鉢

此の外の打鉦子金
色提音漆の鉢

茶碗此具高杯
懸般皿引入合子
皿蓋由燭燭鐵
輪以下注文と
進に悉以皆預
ら者使者と進
ぞ可候ふ也



以無骨の田舎
人也配膳勸盃
料理庖丁或盃
物已下故實の
識者一兩輩雇
ハ令り給ふ可
也萬事父母
之思と成し奉
て畢ぬ敢以奉
撮せ被可り
ら不併參拜之
時と期し候ふ

お籠子今度提ち洋行茶碗具
高杯燭鐵以合子皿蓋由鐵
燭提以進は悉以皆預ら

進使者也
お籠子ハ右提の使者と云ふハ提ハ
提人場及御座候御座候御座候

家人若黨并ふ
家來之仁等皆
家人今度提ち洋行茶碗具
高杯燭鐵以合子皿蓋由鐵
燭提以進は悉以皆預ら

家人今度提ち洋行茶碗具
高杯燭鐵以合子皿蓋由鐵
燭提以進は悉以皆預ら
進使者也
家人若黨并ふ
家來之仁等皆
家人今度提ち洋行茶碗具
高杯燭鐵以合子皿蓋由鐵
燭提以進は悉以皆預ら
進使者也
家人若黨并ふ
家來之仁等皆
家人今度提ち洋行茶碗具
高杯燭鐵以合子皿蓋由鐵
燭提以進は悉以皆預ら
進使者也

茶碗此具高杯

懸般皿引入合子

以徘徊也
被者尤本望也

抑客人光臨の
結構奔走察

奉て候人備用
甘く被る所之

具豆所持之分
小於者之進

を可也燈臺
火鉢蠟燭臺ハ

注文不載也
被不雖進也

能米馬の大豆
林糖菜味噌醬

酢酒鹽梅并小
初獻此料海

月熨斗鮫梅干
削物者干鯉圓

鮫干鯖魚の躬
煎海菜生物者

鯛鱸鯉鮒鯉王
餘魚雉兎鴈鴨

鶉雲雀水鳥山

車中も抑客人光臨依持奉進

奉進本儀備用具豆所持奉

進也進也燈臺火鉢蠟燭

具豆所持之分小於者之進

を可也燈臺火鉢蠟燭臺ハ

注文不載也被不雖進也

能米馬の大豆林糖菜味噌醬

酢酒鹽梅并小初獻此料海

月熨斗鮫梅干削物者干鯉圓

鮫干鯖魚の躬煎海菜生物者

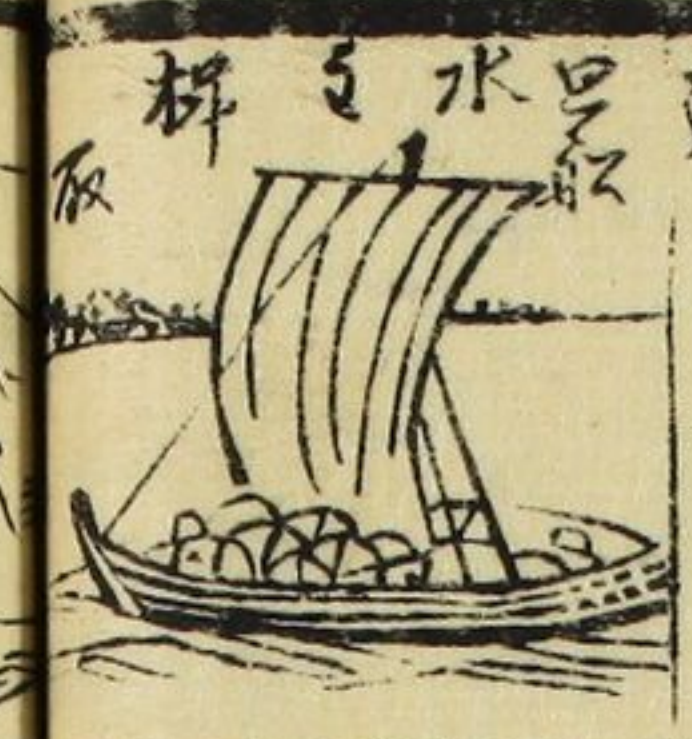
鯛鱸鯉鮒鯉王餘魚雉兎鴈鴨

鶉雲雀水鳥山

山鳥一番

林糖菜味噌醬 酢酒鹽梅并小 初獻此料海 月熨斗鮫梅干 削物者干鯉圓 鮫干鯖魚の躬 煎海菜生物者 鯛鱸鯉鮒鯉王 餘魚雉兎鴈鴨 鶉雲雀水鳥山

と進せ令め候
 猶以不足の
 事候ハ者使者
 と給ふ可き也
 恐恐謹言



五月廿日
 藏人將監大江

左京ハ進殿



此間者連連此
 物魚小依て互

素人進と猶公事事雙老

可治使公と之隆之

中に生るるを源徹と云ふ江中に生るといふは...

一徳孝ハ師弟之味言る事...

一有母ハ孝比因と嘆言る事...

一長一少莫ハ新白更不敷...

一けを推しつゝ之徳小者...

一此は夫及之れ...

不日 藏人將監大江

左京進殿

大凡ハ公親公年三月...

世間と依連と物と生と長と

左京進殿

小密密比雜談
と忌む誠よ不

慮之至也抑世
上既靜謐小屬

道遙比爲小參
入と企てん

欲一候ふ之處
謀叛及逆之凶

徒籌策と廻ら
盗賊根藉之

國國干蜂起せ
今の山海の兩

賊強竊二盜比
徒黨所干横

行せ令り人の
財産と奪ひ取

と土民之住宅
と追捕一旅人

之衣裳と剥取
る之間

鳥帽
松
曳

鳥帽
松
曳

難後賊心息と云
被世既爲

靜徳に回爲務
道遠比爲小參

入と企てん
謀叛及逆之凶

徒籌策と廻ら
盗賊根藉之

國國干蜂起せ
今の山海の兩

賊強竊二盜比
徒黨所干横

行せ令り人の
財産と奪ひ取

と土民之住宅
と追捕一旅人

之衣裳と剥取
る之間

鳥帽
松
曳

鳥帽
松
曳

鳥帽
松
曳



廣言行又兼注金

四十一

所之賊と云々... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

之に因て近日進發せし令らんと欲し候ふ之處此間此戰場小武具乘馬已下員と盡し失ひ候ひ畢ぬ著奔の鎧直腹巻并小御乗替等御助成候

追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族... 追討の爲に大將軍方方に發行せし彼の一族...

ハ者然ル可キ也

中不と云ふは後天の金澤より一府と断しては然と云ふは省別具に之の断断各の義也

今度の出立者當家之眉目一

之妻。尚家之眉目。二口之金也。

門の先途也門葉之人人粉骨

口家之令。其粉骨。令然也。

之合戦と致し可き之旨約諾

今約諾。其旨約諾。其旨約諾。

せ令の候も若存命仕て候者

下金也。一眉目之目と云ふ。一先達家ハ一門ノ下金也。一門ノ下金也。一門ノ下金也。

者再會之時申

御中。將軍家御教書

中人就く將軍家御教書嚴

嚴者。上御親衛

旗等と下し給

除内威外或族令一揆者也

ふ之際内寂外寂の一族一揆

せ令むる者也

一文字。仁平氏ハ家名。仁平氏ハ家名。仁平氏ハ家名。

工細矣弓

一文字。仁平氏ハ家名。仁平氏ハ家名。仁平氏ハ家名。



一文字。仁平氏ハ家名。仁平氏ハ家名。仁平氏ハ家名。

保保子



六月七日

勘解由の次官

小町

謹上

後藤兵部の承

袖今使者と進

せんと欲候

ふ處遮而音信

小預候ふ條

本懐小相叶ひ

候ふ殊よ以喜

悦喜悦抑戰場

御進發之事夜

前始て奉る所

也繪目院宣者

大底之規式令

目官符宣者今

万言往々新法金

四十一

同方也。松骨の合戦とせむと御法も存ふ事も夜令を以て
再令ての如きものやせん能中も守家以て守る事も
御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も
地のか我御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も
御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も

六月七日 勘解由次官

謹上 後藤兵部承

幼年中に友に流し後下相國に居るが勤王の官に
小町に於ての事には御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も

御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も
御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も

御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も

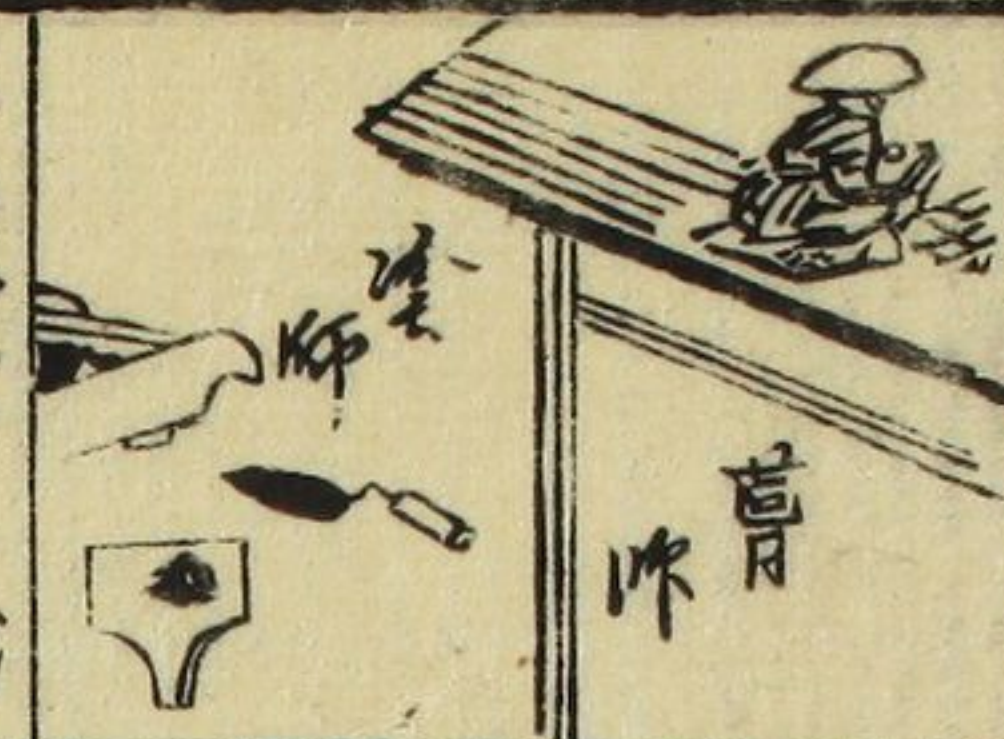
御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も

御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も

御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も御法も存ふ事も

三十一

此指南に非



大將軍副將軍の御教書傍輩比軍勢催促又信用之限小非

之施行侍所之奉書者規模也且ハ嘉例且ハ先規也沙汰申之被可



官要公指南 一倫有八内今天子御言

令旨の御教書傍輩比軍勢催促又信用之限小非

將軍副將軍御教書傍輩

軍勢催促又信用之限小非

軍家御教書傍輩

侍所奉書者規模也

例嘉例也沙汰

此の御教書傍輩比軍勢催促又信用之限小非

三十一

及逆の輩不於
ハ後見の爲與
同張本之族と
貽さ不之と誅
て被と強竊黨
類不至て者同
意見願負之徒黨
と尋ね搜て搦
り捕ら被可き
也凡虜分捕者
軍忠の専一軍
旅之高名也能
能用意せし被
可也

次ハ武具の事
見苦敷く候ふ
紫系系萌黄
系綴卯の花織
黒系に鍔赤革
黄系の腹巻唐
綾小櫻黒革織
大荒目の筒丸
緋繩目紺系綴
腹當星白龍頭

於及逆軍者。高名也。能
与同張本之族。誅
類不至て者。同
意見願負之徒黨
と尋ね搜て搦
り捕ら被可き
也凡虜分捕者
軍忠の専一軍
旅之高名也能

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

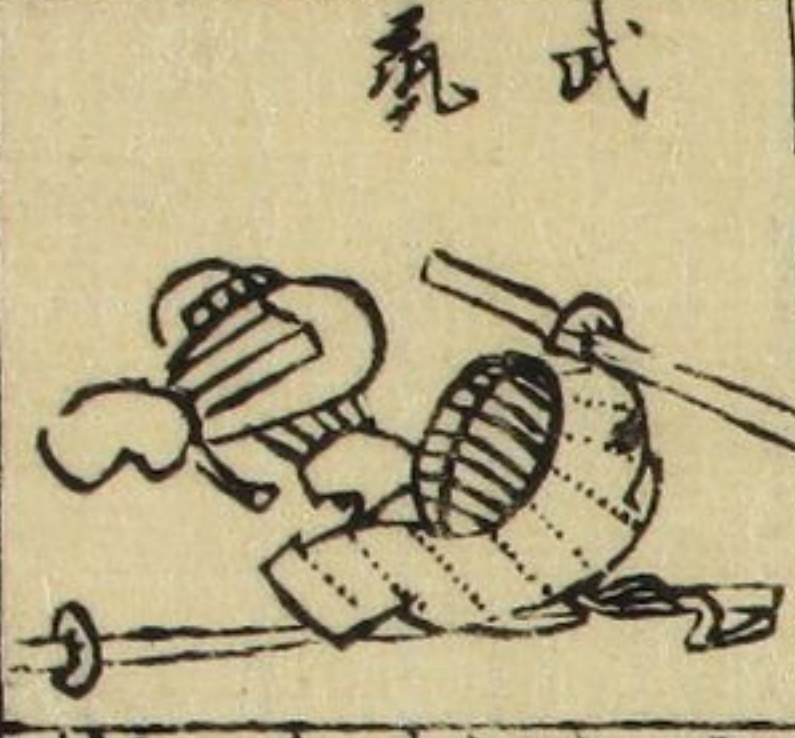
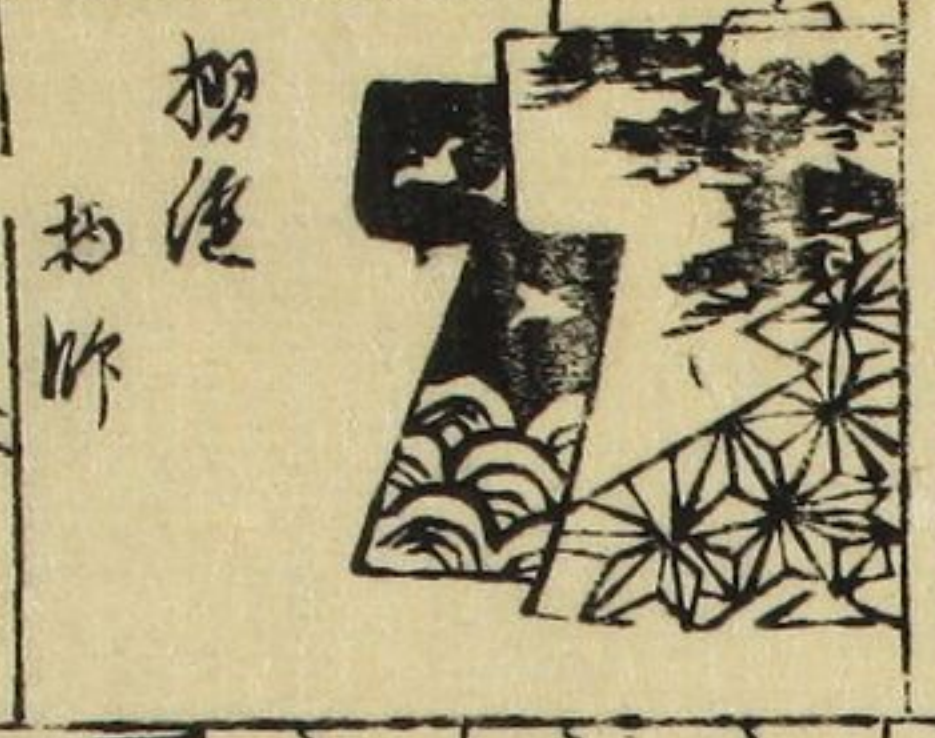
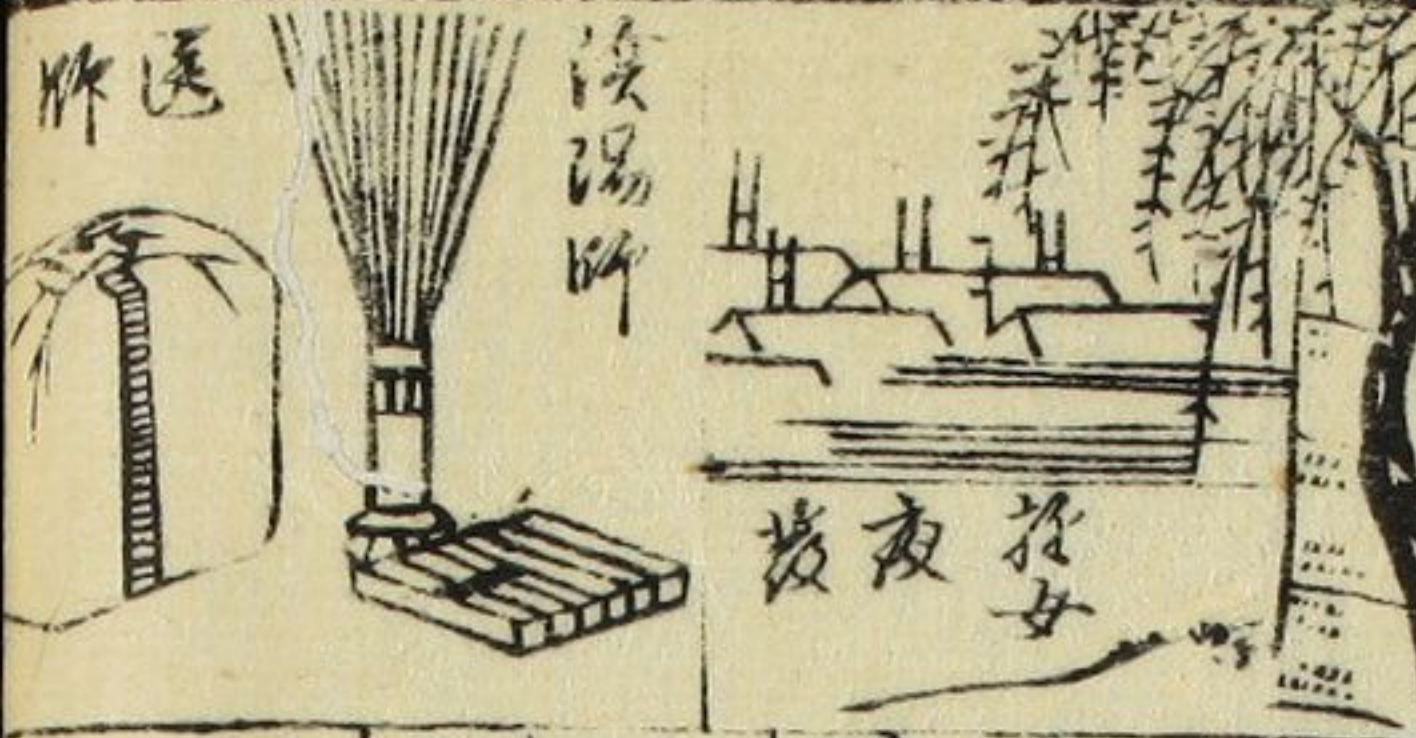
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也
能之被用也

衣冠行状考

五十一

四方白の甲各
一列同色の袖
弁小手蓋襦當
生首延懸鍍袴
逆頰



四方白の甲各
一列同色の袖
弁小手蓋襦當
生首延懸鍍袴
逆頰

一列同色の袖
弁小手蓋襦當
生首延懸鍍袴
逆頰

生首延懸鍍袴
逆頰

逆頰

一列同色の袖
弁小手蓋襦當
生首延懸鍍袴
逆頰

弁小手蓋襦當
生首延懸鍍袴
逆頰

生首延懸鍍袴
逆頰

逆頰

一列同色の袖
弁小手蓋襦當
生首延懸鍍袴
逆頰

弁小手蓋襦當
生首延懸鍍袴
逆頰

生首延懸鍍袴
逆頰

延川集書卷少

三三



相撲

籠胡録石打の

征矢筋切符妻

黒ハ篋矢鶴鶴

の羽鶴ハ本白

等尻籠鷹の羽

ハ雁股鷲ハ羽

の鋒矢各腰當

と相具ハ弓者

本重藤漆籠糸

裏等也弦巻と

加一候ハ畢ハ



大津



川ハ雨



津

激ハ不^つ大^な雁^{やま}之^の一^い羽^は今^{いま}上^う湖^こ也^{なり}雁^{やま}楯^{たて}の^の敷^{しき}也^{なり}
源^{みなもと}に^に住^す令^を採^と取^りと^を令^を採^と取^り其^{その}雁^{やま}楯^{たて}也^{なり}一^い運^{うん}形^{がた}ハ^ハ秋^{あき}音^ねカ^カル

腋^{わき}切^き符^ふ妻^{つま}不^つ打^う矢^や筋^{すぢ}筋^{すぢ}切^き符^ふ妻^{つま}

黒^{くろ}ハ^ハ篋^か矢^や鶴^{つる}鶴^{つる}本^{ほん}白^{しろ}

等^ら尻^{しり}籠^{かご}鷹^{たか}の^の羽^は

ハ^ハ雁^{かり}股^{また}鷲^{じゆ}ハ^ハ羽^は

の^の鋒^{はら}矢^や各^{おの}腰^{こし}當^{あた}

と^と相^あ具^ぐハ^ハ弓^{ゆみ}者^{もの}

本^{ほん}重^{おも}藤^{ふじ}漆^し籠^{かご}糸^{いと}

裏^{うら}等^ら也^{なり}弦^{しん}巻^{まき}と

加^か一^い候^{こう}ハ^ハ畢^{ひら}

大^{おほ}津^つ

川^{かわ}ハ^ハ雨^{あめ}

津^つ

相^あ具^ぐ腰^{こし}當^{あた}者^{もの}本^{ほん}重^{おも}藤^{ふじ}漆^し籠^{かご}糸^{いと}裏^{うら}等^ら也^{なり}弦^{しん}巻^{まき}と

加^か一^い候^{こう}ハ^ハ畢^{ひら}大^{おほ}津^つ川^{かわ}ハ^ハ雨^{あめ}津^つ

同九

太刀者兵庫鎖

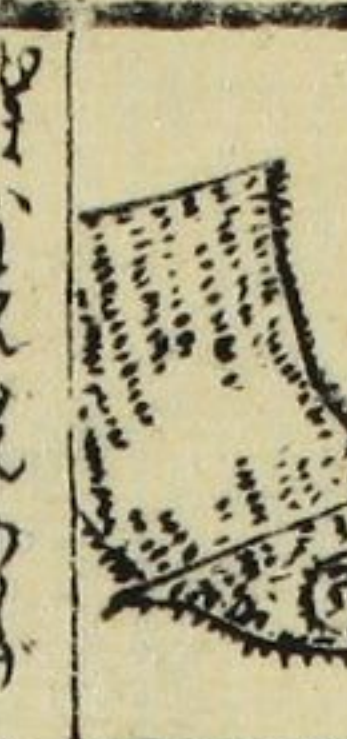
鳥頭皆彫物漆

鐔并小金作左

右卷白柄比長

刀同く手鉾

手鉾



馬者連錢鞞毛

相子栗毛鳥黒

鷄毛黒鶴毛糖

毛鹿毛河原毛

青鶴髪白月額

茸毛駝雪踏等

皆舎人飼口と

相副ゆ



おん



索良

刀沖

兵部行々精目金

五十四

有る一羽の鳥... 一本の竹... 一本の松... 一本の梅... 一本の桜... 一本の橘... 一本の桃... 一本の李... 一本の杏... 一本の梨... 一本の柿... 一本の栗... 一本の胡桃... 一本の松... 一本の竹... 一本の梅... 一本の桜... 一本の橘... 一本の桃... 一本の李... 一本の杏... 一本の梨... 一本の柿... 一本の栗... 一本の胡桃...

太刀者兵庫鎖... 鳥頭皆彫物漆... 鐔并小金作左... 右卷白柄比長... 刀同く手鉾... 手鉾... 馬者連錢鞞毛... 相子栗毛鳥黒... 鷄毛黒鶴毛糖... 毛鹿毛河原毛... 青鶴髪白月額... 茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

兵庫鎖者... 鳥頭皆彫物漆... 鐔并小金作左... 右卷白柄比長... 刀同く手鉾... 手鉾... 馬者連錢鞞毛... 相子栗毛鳥黒... 鷄毛黒鶴毛糖... 毛鹿毛河原毛... 青鶴髪白月額... 茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

今此右巻白柄長刀同手鉾... 兵庫鎖者... 鳥頭皆彫物漆... 鐔并小金作左... 右卷白柄比長... 刀同く手鉾... 手鉾... 馬者連錢鞞毛... 相子栗毛鳥黒... 鷄毛黒鶴毛糖... 毛鹿毛河原毛... 青鶴髪白月額... 茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

馬者連錢鞞毛... 相子栗毛鳥黒... 鷄毛黒鶴毛糖... 毛鹿毛河原毛... 青鶴髪白月額... 茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

馬者連錢鞞毛... 相子栗毛鳥黒... 鷄毛黒鶴毛糖... 毛鹿毛河原毛... 青鶴髪白月額... 茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

毛鹿毛河原毛... 青鶴髪白月額... 茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

青鶴髪白月額... 茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

茸毛駝雪踏等... 皆舎人飼口と... 相副ゆ

皆舎人飼口と... 相副ゆ

相副ゆ

相副ゆ

兵部行々精目金

五十四

うね
利刀



金輻輪の螺鞍

白橋黒漆は張

鞍料の鞍橋金

地の燈白磨れ

轡大形は鞆細

筋は手綱腹帯

豹の皮鹿茸は鞍

覆虎七皮鹿の

子と切付水豹

熊皮は泥障

鞭差繩等御餼

の鳥之と送て

奉る



鞍の皮は鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障
鞭差繩等御餼
の鳥之と送て
奉る

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

螺鞍
白橋
黒漆
は張
鞍料
の鞍橋
金の
地の燈
白磨れ
轡大形
は鞆細
筋は手
綱腹帯
豹の皮
鹿茸は
鞍
覆虎七
皮鹿の
子と切
付水豹
熊皮は
泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

金輻輪の螺鞍
白橋黒漆は張
鞍料の鞍橋金
地の燈白磨れ
轡大形は鞆細
筋は手綱腹帯
豹の皮鹿茸は鞍
覆虎七皮鹿の
子と切付水豹
熊皮は泥障

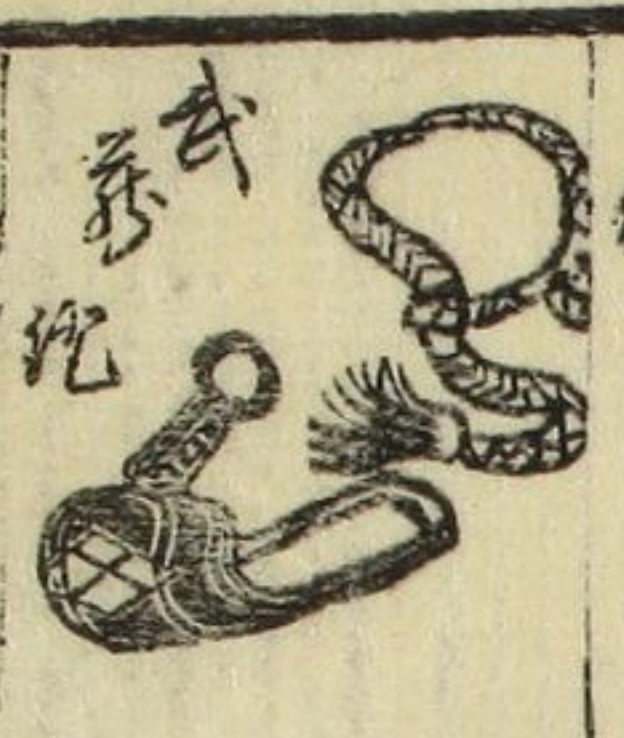
延川集書註

被者證判狀不
載せて後亂之
龜鏡不備了
被可き也



猶心之及所
尋常之具足と
尋常進ず可
之處境節所
忽劇大略此式
小候ふ也諸事

御歸宅之時と
期一候と恐恐
謹言



江後後亂之紙後也
（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）
（十一）
（十二）
（十三）
（十四）
（十五）
（十六）
（十七）
（十八）
（十九）
（二十）
（二十一）
（二十二）
（二十三）
（二十四）
（二十五）
（二十六）
（二十七）
（二十八）
（二十九）
（三十）
（三十一）
（三十二）
（三十三）
（三十四）
（三十五）
（三十六）
（三十七）
（三十八）
（三十九）
（四十）
（四十一）
（四十二）
（四十三）
（四十四）
（四十五）
（四十六）
（四十七）
（四十八）
（四十九）
（五十）
（五十一）
（五十二）
（五十三）
（五十四）
（五十五）
（五十六）
（五十七）
（五十八）
（五十九）
（六十）
（六十一）
（六十二）
（六十三）
（六十四）
（六十五）
（六十六）
（六十七）
（六十八）
（六十九）
（七十）
（七十一）
（七十二）
（七十三）
（七十四）
（七十五）
（七十六）
（七十七）
（七十八）
（七十九）
（八十）
（八十一）
（八十二）
（八十三）
（八十四）
（八十五）
（八十六）
（八十七）
（八十八）
（八十九）
（九十）
（九十一）
（九十二）
（九十三）
（九十四）
（九十五）
（九十六）
（九十七）
（九十八）
（九十九）
（一百）

此打州の字切と記し以て其状のり之に後亂の字添とて之を後後ハ
龜トすと使するものと後ハ名を要と成すはも亦人の多しを以て
之を後後ハ字添字添とて之を同ト一筆の公候の先途とて云々
（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）
（十一）
（十二）
（十三）
（十四）
（十五）
（十六）
（十七）
（十八）
（十九）
（二十）
（二十一）
（二十二）
（二十三）
（二十四）
（二十五）
（二十六）
（二十七）
（二十八）
（二十九）
（三十）
（三十一）
（三十二）
（三十三）
（三十四）
（三十五）
（三十六）
（三十七）
（三十八）
（三十九）
（四十）
（四十一）
（四十二）
（四十三）
（四十四）
（四十五）
（四十六）
（四十七）
（四十八）
（四十九）
（五十）
（五十一）
（五十二）
（五十三）
（五十四）
（五十五）
（五十六）
（五十七）
（五十八）
（五十九）
（六十）
（六十一）
（六十二）
（六十三）
（六十四）
（六十五）
（六十六）
（六十七）
（六十八）
（六十九）
（七十）
（七十一）
（七十二）
（七十三）
（七十四）
（七十五）
（七十六）
（七十七）
（七十八）
（七十九）
（八十）
（八十一）
（八十二）
（八十三）
（八十四）
（八十五）
（八十六）
（八十七）
（八十八）
（八十九）
（九十）
（九十一）
（九十二）
（九十三）
（九十四）
（九十五）
（九十六）
（九十七）
（九十八）
（九十九）
（一百）

之を後後ハ字添字添とて之を同ト一筆の公候の先途とて云々
（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）
（十一）
（十二）
（十三）
（十四）
（十五）
（十六）
（十七）
（十八）
（十九）
（二十）
（二十一）
（二十二）
（二十三）
（二十四）
（二十五）
（二十六）
（二十七）
（二十八）
（二十九）
（三十）
（三十一）
（三十二）
（三十三）
（三十四）
（三十五）
（三十六）
（三十七）
（三十八）
（三十九）
（四十）
（四十一）
（四十二）
（四十三）
（四十四）
（四十五）
（四十六）
（四十七）
（四十八）
（四十九）
（五十）
（五十一）
（五十二）
（五十三）
（五十四）
（五十五）
（五十六）
（五十七）
（五十八）
（五十九）
（六十）
（六十一）
（六十二）
（六十三）
（六十四）
（六十五）
（六十六）
（六十七）
（六十八）
（六十九）
（七十）
（七十一）
（七十二）
（七十三）
（七十四）
（七十五）
（七十六）
（七十七）
（七十八）
（七十九）
（八十）
（八十一）
（八十二）
（八十三）
（八十四）
（八十五）
（八十六）
（八十七）
（八十八）
（八十九）
（九十）
（九十一）
（九十二）
（九十三）
（九十四）
（九十五）
（九十六）
（九十七）
（九十八）
（九十九）
（一百）

文

今使者と云ふせんを折しも書信公候に於て其状のり之に後亂の字添とて之を同ト一筆の公候の先途とて云々
（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）
（十一）
（十二）
（十三）
（十四）
（十五）
（十六）
（十七）
（十八）
（十九）
（二十）
（二十一）
（二十二）
（二十三）
（二十四）
（二十五）
（二十六）
（二十七）
（二十八）
（二十九）
（三十）
（三十一）
（三十二）
（三十三）
（三十四）
（三十五）
（三十六）
（三十七）
（三十八）
（三十九）
（四十）
（四十一）
（四十二）
（四十三）
（四十四）
（四十五）
（四十六）
（四十七）
（四十八）
（四十九）
（五十）
（五十一）
（五十二）
（五十三）
（五十四）
（五十五）
（五十六）
（五十七）
（五十八）
（五十九）
（六十）
（六十一）
（六十二）
（六十三）
（六十四）
（六十五）
（六十六）
（六十七）
（六十八）
（六十九）
（七十）
（七十一）
（七十二）
（七十三）
（七十四）
（七十五）
（七十六）
（七十七）
（七十八）
（七十九）
（八十）
（八十一）
（八十二）
（八十三）
（八十四）
（八十五）
（八十六）
（八十七）
（八十八）
（八十九）
（九十）
（九十一）
（九十二）
（九十三）
（九十四）
（九十五）
（九十六）
（九十七）
（九十八）
（九十九）
（一百）

六月十一日
兵部の丞丹治

謹上

勘解由の次官

殿 御報

恐と乍申入

と候ふ不慮之

外傍輩の所管

小區加え被

候ふ之間微力

之及ぶ所東西

に奔走せ令む

るに依て寸暇

と得不直は愚

状と捧げ候ふ

自由之至は候

ふ御意と得て

内内洩し申さ

被可き也抑來

る廿日頃勝負

経禁に候ふ風

流の爲入る可

と之物一非

六月十日

勘解由

勘解由の次官殿

山越の近來しつて身法の世にそ然地年未考蓋合

名案不慮之

車馬之間微力

在事不慮之

浪自由之

浪中杯來

美公爲

何しを捉る

風

案

桂川表書主抄

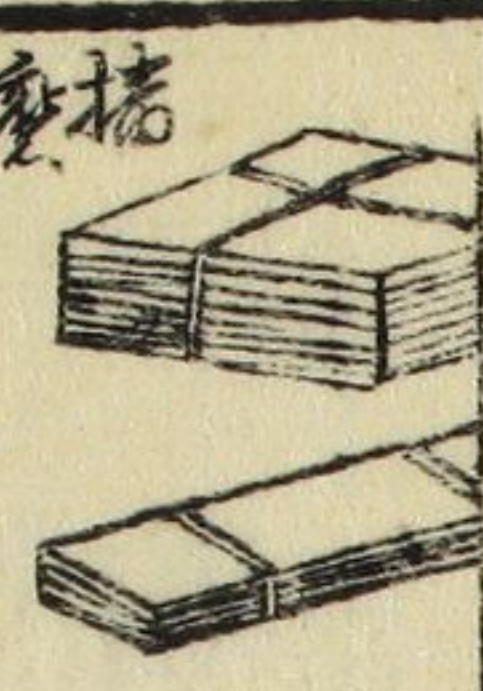
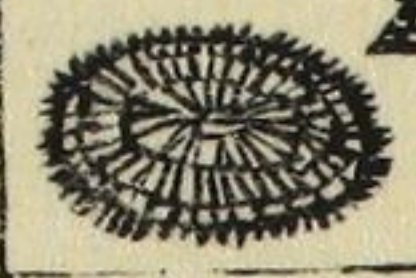
五十一

紅葉重以楊裏
薄紅梅色色の
筋小袖隔子織
物單衣濃紅の
袴美精好以裳
唐綾狂文乃唐
衣朽葉地紫七
羅細練貫浮文
比絞摺繪書丸
目結卷漆村紺
極淺黃小袖同

懸帶



伊後 巻



栳 同種紙

蒔繪七手箱硯
篋冠表比衣水
干直衣符衣鳥
帽子直垂大口

小袖。薄子。織物。身衣。後。法。分。袴。

袴。精。好。裳。唐。綾。狂。文。乃。唐。

葉。地。紫。七。羅。細。練。貫。浮。文。

比。絞。摺。繪。書。丸。

目。結。卷。漆。村。紺。

極。淺。黃。小。袖。同。

伊。後。巻。

栳。同。種。紙。

蒔。繪。七。手。箱。硯。

篋。冠。表。比。衣。水。

干。直。衣。符。衣。鳥。

帽。子。直。垂。大。口。

三十一

三十一

大惟子太刀長
刀腰刀籠胡籙

大星比行購房
鞆牛比晒懸等

上品不非比と
雖注文に任せ

相違無之之様
申一下下被可

也恐恐謹言



大惟子太刀長

刀腰刀籠胡籙

大星比行購房

鞆牛比晒懸等

上品不非比と

雖注文に任せ

相違無之之様

申一下下被可

也恐恐謹言

辰言行及朱三金

大惟子太刀長

刀腰刀籠胡籙



七月五日

左衛門の尉大

中臣

宮内の少輔殿



白紙拂底之間
反故を用ゆ
牙也更不輕賤
之儀子非バ柳
申一入まじ被
る用物の事目
録小任せ之と
下と被る所也
用湯て後者急
が持参せし被
可也
但一單衣の文

案する年比御
事御下り

文

忘るるれ中上之忘れし事
まに池にたれし事
西条をまてす
暇なれし事

七月五日
左衛門の尉大
中臣
宮内の少輔殿

七月五日

左衛門尉大

宮内少輔殿

七月五日
左衛門尉大
中臣
宮内の少輔殿

白紙拂底之間

反故を用ゆ

牙也更不輕賤

之儀子非バ柳

申一入まじ被

る用物の事目

録小任せ之と

下と被る所也

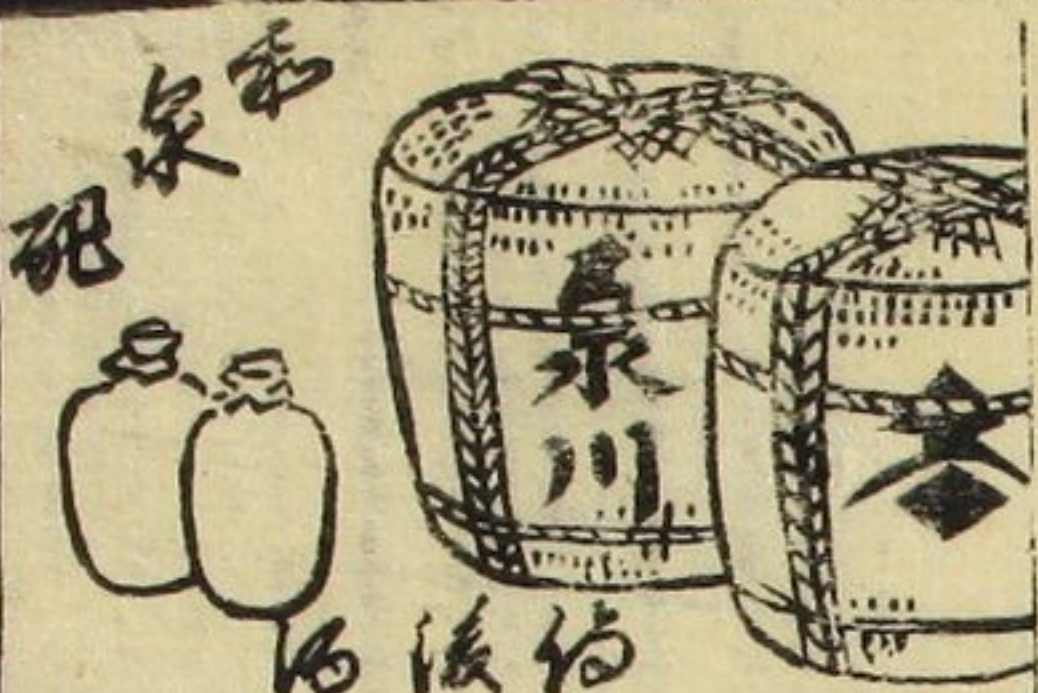
用湯て後者急

が持参せし被

可也

但一單衣の文

要用の分者差
 りひ候ふ之開
 練色の魚龍白
 張裏衣二重候
 不注文之外使
 者に屬して之
 と申し入と
 被長組素絹製
 装精好薄墨の
 衣法服錦の七
 條裳横尾鈍色
 下乃袴



鏡鉢錫杖鈴佛
 具如意香爐水
 精半糞束比念
 珠帽子直級鼻
 高草鞋



張裏衣二重候。法服錦七條。

者。法服錦七條。法服錦七條。

精好薄墨の衣法服錦の七條。

裳横尾鈍色。下乃袴。

被長組素絹製。装精好薄墨の衣法服錦の七條。

と申し入と。要用の分者差。練色の魚龍白。張裏衣二重候。不注文の外使。者に屬して之。

鏡鉢錫杖鈴佛。具如意香爐水。精半糞束比念。珠帽子直級鼻。高草鞋。

泉。碓。盃。鏡鉢。錫杖。鈴佛。如意。香爐。水。精半糞束比念。珠帽子。直級鼻。高草鞋。

泉。碓。盃。鏡鉢。錫杖。鈴佛。如意。香爐。水。精半糞束比念。珠帽子。直級鼻。高草鞋。



有栗

龍虎梅竹の唐繪一對并小横

笛笙篳篥和琴

箏琵琶方鼓

八大鼓羯鼓鈺

鼓二の鼓銅鈸

子摺鼓等同じ

之と尋常下

被用渴き事終

ら者不日不持

參せし破可

損失有ら者生

涯之不覺也存

知せし破可

者歟忍忍謹言



我

縮

浦

松

松

尾川主赤青庄抄

尾川主赤青庄抄

つらねら敷流し一帽引信の既流しもの玉割一丈八尺半の長
由後分は信の長一丈八尺半の長とす一丈八尺半の長とす
由後分は信の長一丈八尺半の長とす一丈八尺半の長とす
十徳のつらね保せんと一尺八寸半の信の長とす一尺八寸半の信の長とす

龍虎梅竹の唐繪一對并小横

笛笙篳篥和琴

箏琵琶方鼓

八大鼓羯鼓鈺

鼓二の鼓銅鈸

子摺鼓等同じ

之と尋常下

被用渴き事終

ら者不日不持

參せし破可
損失有ら者生
涯之不覺也存
知せし破可
者歟忍忍謹言

三ノ口

之條殆往日
 比芳恩と忘る
 るが如く頗胸
 中の等閑非
 比只自然之解
 怠也恐と入て
 候ふ抑洛陽靜
 謚田舎無爲貴
 邊の本望也愚
 身比快樂察せ
 ら被可也
 之小就く御引
 付の沙汰定て
 行ハ被候ふ歎
 所領安堵遺跡
 争論越境違亂
 之際參訴と致
 さんと御十
 之處此間の疲
 勞所領乃化條
 合期難く候
 ふ貴方比御扶
 持と憑之代官
 と進を可也

致言と彼自芳恩頗胸懐

苦困自是之悔多也之候

抑洛陽靜謚田舎無爲貴

邊の本望也愚身比快樂察せ

ら被可也之小就く御引付

付の沙汰定て行ハ被候ふ歎

所領安堵遺跡争論越境違亂

之際參訴と致さんと御十

之處此間の疲勞所領乃化條

合期難く候ふ貴方比御扶

持と憑之代官と進を可也

因言致言と彼自芳恩頗胸懐

花川主人書

六十五

短慮未練之仁
稽古せ令む

之程御詞を加
被不之者

越度出来らん
歟草案の王代

と書き與了
被奉行可引

導せ被者恐
悦小候ふ

引付問注野上
裁勘判之體異

見議定之趣評
定衆以下之と

注一給ふ可
御沙汰之汰所

務之規式雜務
之流例下知成

敗傍例納汰律
令武家の相違

存知仕度
候ふ



素心武家御奉仕之儀

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

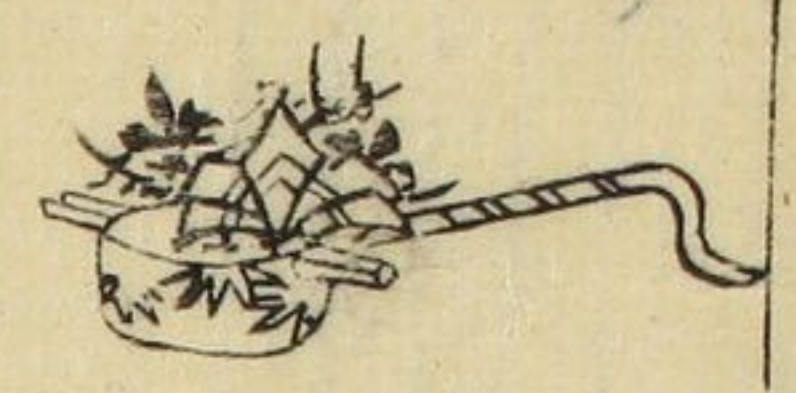
御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

御沙汰之儀
御奉行可引

武川素直書

打池子



勉學に候ふと
雖螢雪鑽仰之

功捐つ可く
不古之日記法

例引付と借
給く一見と

加一不審の事
於者尋保明

む可き也右筆
等叶ひ難く候

と雖雜詠之
風情計者皆見

之窺と成一度
候ふ心事腐

毫に及むず偏
面律と期に恐

恐謹言

令



勉學に候ふと
雖螢雪鑽仰之
功捐つ可く
不古之日記法
例引付と借
給く一見と
加一不審の事
於者尋保明

今減なり
或は或は
或は或は
或は或は

雷深修助
法例
下

法例
下

下

下

下

下

下

下

下

下

指せし事無き
依て常に申
通じ不疎畧
之至ア驚き入
候ハ之處若
問之條珍里珍
重日來の本望
忽以満足一候
ハ訖ぬ庶幾何
事々之小如ク
哉四海泰平一
天靜謐乃事一

天靜謐の事人
人の攘災所阿
此幸祐也御沙
汰此事嚴密不
執行せし被る
所也更不停滯
豫儀之政道ニ
非ハ訴訟若悠
悠緩急之儀有
ら者御在浴之
費也



依て指事乃今道味也

野合也乃今因條味也

果来也乃今因條味也

集事也乃今因條味也

儀事也乃今因條味也

沙汰也乃今因條味也

天靜謐也乃今因條味也

天靜謐也乃今因條味也

天靜謐也乃今因條味也

天靜謐也乃今因條味也

天靜謐也乃今因條味也

天靜謐也乃今因條味也

活持之計畧と
用意せし被可

先舉狀と代
官於進せし被

者公所の出仕
諸亭比經廻圖

師と申は可
也奉行人の賄

賂衆中の屬託
上衆の秘計口

入頭人内奏具
肩機嫌と窺ひ

之を申は可
讓狀比謀實越

境比相論未甲
比次次第分

未譜代相傳
之重書等者引

付方小於御沙
汰と逢た被可



火
神

活持之計畧と
用意せし被可
先舉狀と代
官於進せし被
者公所の出仕
諸亭比經廻圖
師と申は可
也奉行人の賄
賂衆中の屬託
上衆の秘計口
入頭人内奏具
肩機嫌と窺ひ
之を申は可
讓狀比謀實越
境比相論未甲
比次次第分
未譜代相傳
之重書等者引
付方小於御沙
汰と逢た被可

公平出仕續其之經廻圖

少事必能終半序為純上

秘計也須由自奉具肩機嫌

境比相論未甲

比次次第分

未譜代相傳

之重書等者引

付方小於御沙

汰と逢た被可

火
神

庭別主求書註抄

七十一

真躬



真躬

頭人上衆監閣
右筆奉行入等
終日御評定の
爲は躬屈有
雖更下御休息
無く之と愚判
せ被問注所
の賦不就(監

閣重祿之
賦ら執筆問狀
の奉書と訴人
於書與之之
時兩度不及で
無音セハ使節
に仰せて召符
と下被違背
散狀不就一者
直訴人于下
知被召進
せ令ひ之時

猶ハ後小振子突解くを以て其用ひ身は
た儼りゆゆりて後日使人の形跡をりしるるを其
惡人ハ乞と爲す候此と代り候利有りの敷之候
其のものを一越境を海におはせ候まも
有之候一備代相傳へ其のを申す
以上は圖

同右第... 以人等爲後出候

定限窮度更之法候具是勅

判之能は不賦... 候事之

與問狀有書... 候及及

重者作使節... 有候違背

教狀者由被下... 候人等進

時被判下... 候之同之答

訴陳に御... 候後雄

乞狀奉... 候事書於

三十一世末書

與狀負累の證
 文等々謀實れ
 と糾明に管領
 の寄人右筆奉
 行人等は評判
 也奉行入差符
 方之與奪と得
 ハ當處に仁者
 書下と成下
 國之時者奉書
 下に而る小
 無音之時ハ使

節召文以下一
 訴陳れ狀と調
 當所の執事
 年年に管領奉
 行人等に相對
 一問答と致一
 沙汰披露を
 可一探題之異
 見お就て下知
 と加ふ所也



券状和共狀有田稅從文未謀實

糾明に管領寄人右筆奉行人

等評判也奉行入差符方之與奪

奉書下と成下國之時者奉書

下に而る小無音之時ハ使

節召文以下一訴陳れ狀と調

當所の執事年年に管領奉

行人等に相對一問答と致一

沙汰披露を可一探題之異

見お就て下知と加ふ所也

與狀負累の證文等々謀實れ

と糾明に管領の寄人右筆奉



侍所者謀殺
害山海の雨賊
強竊の二盜放
火刃傷打擲跡
躍勾引路次比
狼藉鬪諍喧嘩
等也管領執事
奉行人之と檢
斷之所司代非

狀と右筆於賦
之之時小舎人
或下部等と以
犯人と侍所於
召出一申以詞
と記録一言色
體比嫌疑小依
て犯否依糾明
之之時所犯
已遁る所無
之者則之と
召籠め或推問

考と下國におきし其先により居る事と其不其書きたり同狀
の事と一書者使の御海以下の御書きたり同狀
之の事と一書者使の御海以下の御書きたり同狀
之の事と一書者使の御海以下の御書きたり同狀
之の事と一書者使の御海以下の御書きたり同狀

下と謀殺殺害山海の賊
竊盜放火刃傷打擲跡
躍勾引路次比狼藉鬪諍喧嘩
等也管領執事奉行人之と檢
斷之所司代非

代賊辨狀右筆於賦
或下部等と以
犯人と侍所於
召出一申以詞
と記録一言色
體比嫌疑小依
て犯否依糾明
之之時所犯
已遁る所無
之者則之と
召籠め或推問

拷問拷訊等に及んで之と尋
搜で與同黨類
等と尋究の断
罪と可き者ハ
之と誅せし被
誠む可き者ハ
之と禁獄し流
刑十可き者ハ
流帳に記さ被
此外火印追放
以下車の輕重

其人此是非小
隨て之故行ハ
被可



次小寺社の新
訟者本所の擧
違小就て之依
是非被越

老弱之者或者禁獄之可流

刑者殺死後遺棄外今下迄

放火防禁物重其公今流

殺之係板公月日殺すは西は家と乱るんす老之殺
若くは殺す老は海は海法種益公月日殺すも

殺火大つけ又傷又物をも令わやうく
お掛ハ持かくて人
とあはくくと隠匿人凶謀作しりる之句引ハかや
六月は殺すは公今下迄今下迄今下迄今下迄今下迄

代友はあ之下今下迄今下迄今下迄今下迄今下迄

容納の之もあはくくと若くは殺す老は海は海法種益公月日殺すも

犯したるは之もあはくくと若くは殺す老は海は海法種益公月日殺すも

犯したるは之もあはくくと若くは殺す老は海は海法種益公月日殺すも

犯したるは之もあはくくと若くは殺す老は海は海法種益公月日殺すも

犯したるは之もあはくくと若くは殺す老は海は海法種益公月日殺すも

犯したるは之もあはくくと若くは殺す老は海は海法種益公月日殺すも



八月七日
民部の大輔田原
謹上太極殿

傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

方傳令とすも物をおり方なれば又傳令と指すもなるとも
に承るるに古くはまゝとすし控ありては金匱要略及び海人

八月七日 民部の大輔田原

謹上太極殿

毛川主水三吉

一六



本比御札不預

候ふ之處他

行之間則御返

事と申さ不候

ふ之條本意と

失ひ畢ぬ抑將

軍家若宮御參

詣之事供奉の

日記或方小借

用せし被候ふ

後日能く進

可さ也其體殆

關東鶴ヶ岡ハ

幡宮の參詣小

超過せ令り候

ひ畢ぬ

路次者ハ葉此

御車後車の公

卿一人騎馬乃

殿上人前騎の

北面等美美敷

綺羅天下耀々

田原矢橋越後守公代の條は後任下治由と封郡の事は後任に任下る

吉頃預知札を代約面

則事出迄奉悉條案を之案

折將軍家美意官御奉納奉

佐日記後任同或方小借然

可さ也其體殆

關東鶴ヶ岡ハ

幡宮の參詣小

超過せ令り候

ひ畢ぬ

路次者ハ葉此

御車後車の公

卿一人騎馬乃

殿上人前騎の

美川主長青玉抄

二二七

陣頭花と散
狩衣水旱供奉
の入ハ浄衣白
の直垂布衣乃

景勢衣文當と
撥はく行ぎやう粗目と

驚おどろ以家文當

色等色色の狂

文色節と盡
金銀と鏤らう凡

中間雜色舍人
牛飼等干送くわん

色と文いろとぶ



奪うば取と



中人就なつか後陣

の武士警固しんごは
勇士色色ゆうしは甲
胃思思いしは直

淨衣白直垂布衣水旱供奉

撥行粗目

驚以家文當

中間雜色舍人

牛飼等干送

色と文

奪取

中人就後陣

の武士警固は
勇士色色は甲
胃思思は直

中後陣武士警固勇士色色甲胃思思は直

聖馬鞍弓振重
代之重寶と著
新調之美麗
と用ひ門外自
者前後の隨兵
上下に番ひ左
右に帶刀二行
に列り御帶刀
の役人御調度
懸け人弓手妻
手に相並んで
之に扈從以

宵思て鑿也。馬鞍弓。後云
重宝。用新調之美麗
自以之者。前後隨兵番
右に帶刀二行。列り御帶刀
役人御調度。懸け人弓手妻
手に相並んで。之に扈從以

御迎仕伶人者
樂妓と調一羅
綾之袂と陣頭
於翻し御前の



御迎仕伶人者。樂妓と調一羅。綾之袂と陣頭。於翻し御前の
御前。綾之袂と陣頭。於翻し御前の
御前。綾之袂と陣頭。於翻し御前の

舞人者鞞鞞と
打て舞行之踵

と庭上於峙つ
称空神主者幣

帛と大狀於棒
け別當社僧者

經の紐と玉比
莞於解く巫八

乙女者裾帶と
曳て透廊に舞

遊び職掌の神
樂男者調拍子

と合して拜殿
祇候す



加之臨時之陪

從當坐の神樂

朝倉返比詠物

拍子比本末と

調一賽礼の奠

如在之儀と致

猪待舞の踵は庭上秘舞

と庭上於峙つて空神主者幣帛と大狀於棒

別當社僧者經の紐と玉比莞於解く巫八

乙女者裾帶と曳て透廊に舞遊び職掌の神樂男者調拍子

と合して拜殿祇候す加之臨時之陪從當坐の神樂

朝倉返比詠物拍子比本末と調一賽礼の奠如在之儀と致

猪待舞の踵は庭上秘舞と庭上於峙つて空神主者幣帛と大狀於棒

別當社僧者經の紐と玉比莞於解く巫八乙女者裾帶と曳て透廊に舞

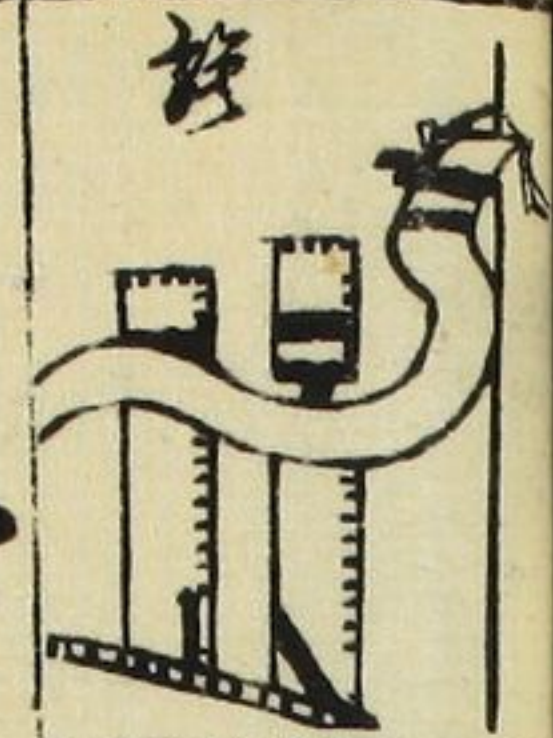
遊び職掌の神樂男者調拍子と合して拜殿祇候す加之臨時之陪從當坐の神樂

朝倉返比詠物拍子比本末と調一賽礼の奠如在之儀と致

猪待舞の踵は庭上秘舞と庭上於峙つて空神主者幣帛と大狀於棒

別當社僧者經の紐と玉比莞於解く巫八乙女者裾帶と曳て透廊に舞

以神感之興嚴
重之熊誠小以
揭焉也耳目之
及ぶ所亦筆に
違り不只高察
と仰ぐ而已謹
言



八月十三日
散位長谷部
謹上
大内記殿

嚴重之興。依揭焉也。耳目之

及ぶ所亦筆に。違り不只高察

と仰ぐ而已謹言

如左祭神如神在とありし中へ廻
揚馬はたふともありとも伺
文
意
如左祭神如神在とありし中へ廻
揚馬はたふともありとも伺

何候て教書も老後法に於て人
何候て教書も老後法に於て人
何候て教書も老後法に於て人

白た旨。及後。及後。及後。
後と内記殿



星の
御法談之後常

ふ参仕言上せ

令む可き之旨

相存ざる之處

公私の息劇ふ

依て懈怠せ令

む之條越度

之至り佛意真

慮ふ背後悔

之外他無く候

ふ抑近日佛事

大法會と執行

ふ事不候ふ貴

寺の長老と拜

請して當日の

唱導師不定り

申一度候ふ

侍者聽叫請客

頭首と召具せ

ら被光臨と許

候ハ者力者

駕輿丁と進出

展言行々精治金

大内進出の儀は、御法談の後、常々参仕言上せ、令む可き之旨、相存ざる之處、公私の息劇ふ、依て懈怠せ令む之條越度之至り佛意真慮ふ背後悔之外他無く候ふ抑近日佛事大法會と執行ふ事不候ふ貴寺の長老と拜請して當日の唱導師不定り申一度候ふ侍者聽叫請客頭首と召具せら被光臨と許候ハ者力者駕輿丁と進出

御法談之後常

ふ参仕言上せ

令む可き之旨

相存ざる之處

公私の息劇ふ

依て懈怠せ令

む之條越度

之至り佛意真

慮ふ背後悔

之外他無く候

ふ抑近日佛事
大法會と執行
ふ事不候ふ貴
寺の長老と拜
請して當日の
唱導師不定り
申一度候ふ
侍者聽叫請客
頭首と召具せ
ら被光臨と許
候ハ者力者
駕輿丁と進出

定川法親王抄

八十四

可く候ふ



御供養有る可

一條條者精舎

一字三重の塔

安金堂寶塔經

藏鐘樓食堂休

所總門二階湯

屋僧坊金色等

身の如來白檀

坐像菩薩脇

士比二天之と

尅彫以細金彩

色の繪像各一

幅薄濃代墨画

一對書寫指寫

の御經般若と

轉讀一經王と

讀誦一秘法故

勤行一陀羅尼

と唱滿一眞言

故念誦以稱名

そのまゝなりて御文と唱下りぬる御供養有る可く候ふ
此の御供養有る可く候ふ
此の御供養有る可く候ふ
此の御供養有る可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

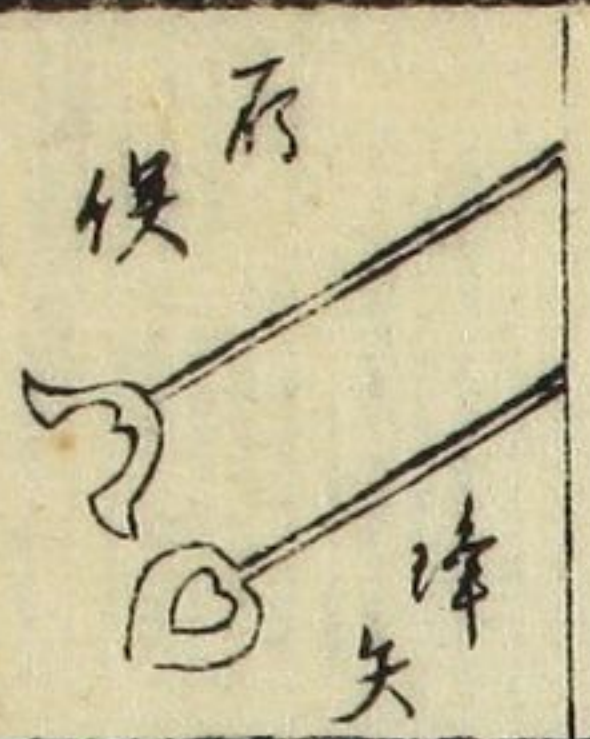
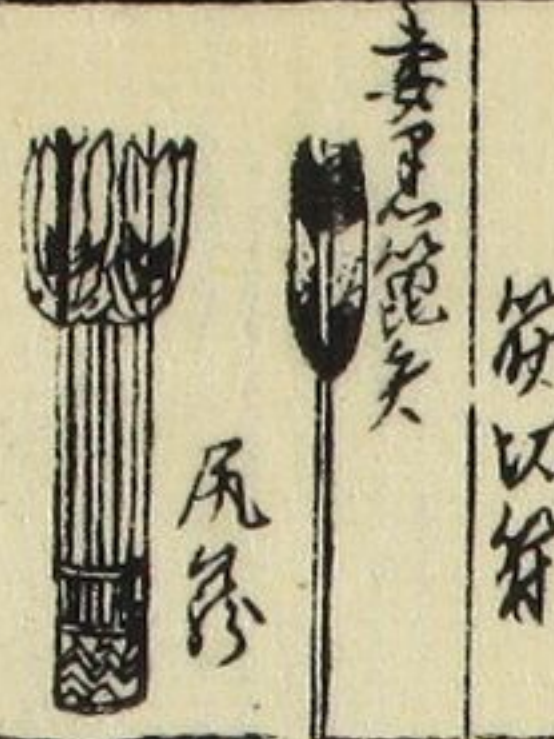
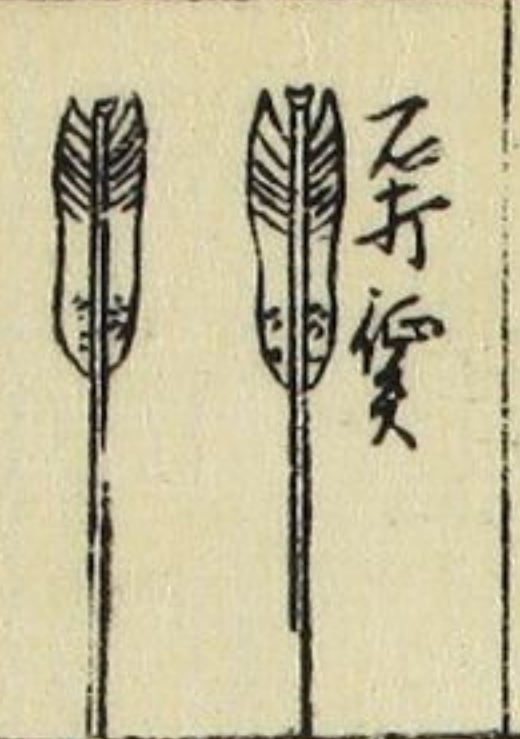
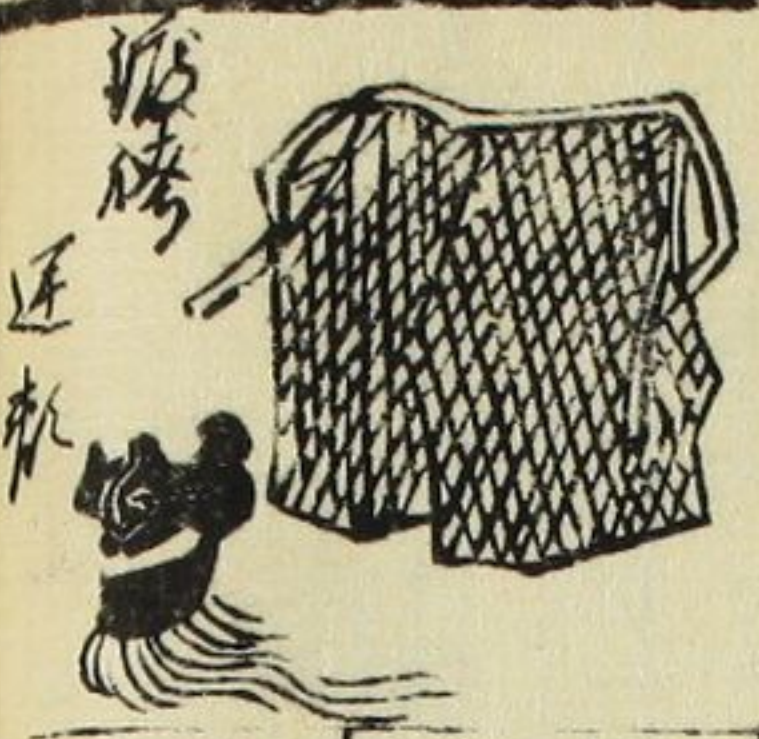
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ
可く候ふ

蓮川法華經抄

八十五

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也



念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

念佛九旬供花
一夏持齋禪律
持擻比行人等
攝待千僧供養
非人施行等也

延川寺藏書

八六



木柳の世の物... 柳下石... 柳下石... 柳下石...

但一佛布施并
不被物録物等
用意輕賤也只
御助成不擬一

て之と執行せ
ら被可一御讚
謨之儀も非比
と雖啓白許と
以一聲と鳴り
と被可一候入

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

但佛布施并
不被物録物等
用意輕賤也只
御助成不擬一

て之と執行せ
ら被可一御讚
謨之儀も非比
と雖啓白許と
以一聲と鳴り
と被可一候入

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白



也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

也一向不御哀
憐と仰く恐惶
敬白

九月十三日

沙彌

進上

侍者御中



芳札之旨披見

セ令め候い訖

以誠ニ御給仕

有る可き之旨

折願せし被る

歎今干懈怠之

條凡情常の業

障也尤謝せし

彼可き者也唱

道は事申入

と候ふ之處其

期小臨て手輿

御迎と給ふ可

き由仰ふ候ふ

善根の事兼日

誦願文と進

まの被可一佛

家經卷讚嘆者

九月十三日

沙彌

進上。侍者御中。

（約老の経、亦け交申にても）
（沙彌、十月の事、御ふとるに）

芳札之旨披見。令め候い訖。以誠ニ御給仕。有る可き之旨。折願せし被る。歎今干懈怠之。條凡情常の業。障也尤謝せし。彼可き者也唱。道は事申入。と候ふ之處其。期小臨て手輿。御迎と給ふ可き由仰ふ候ふ。善根の事兼日。誦願文と進まの被可一佛。家經卷讚嘆者。

進上。侍者御中。

進上。侍者御中。

進上。侍者御中。

進上。侍者御中。

進上。侍者御中。

進上。侍者御中。

進上。侍者御中。

進上。侍者御中。

尾川主天書註少

二八

丁細有る可ク
り不堂塔供養

并小法華八講
者大法會の儀

八小相當る歟
法服登高座大

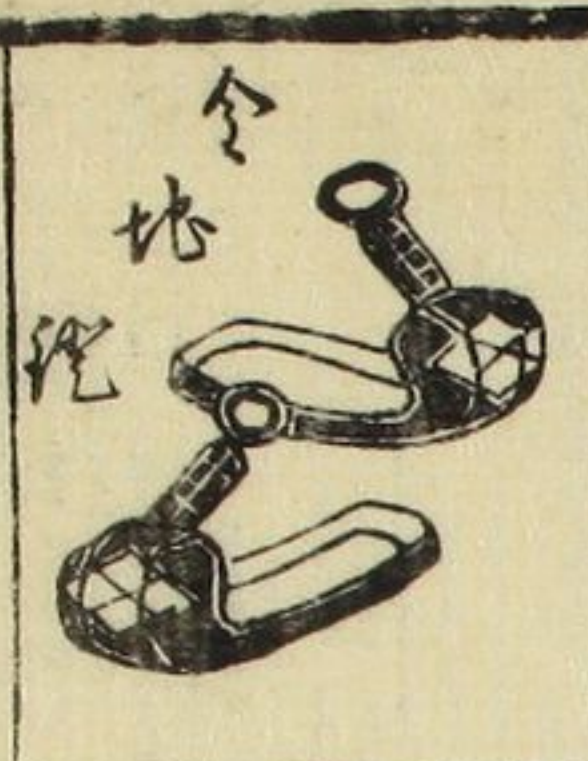
行道等有る可
一聖道の名僧

と以其節と遂
げ被可一講

即讀師注記暨
者讀我探

小唱散花梵音
錫杖對揚咒願

師等之と加請
せ被可也



伶人舞童之儀
式殊小大切也

會儀式次。法服。登高座。大

分。法華。八講。後。被。道。之。衆。

講。師。讀。經。法。華。經。者。後。儀。探

頌。奏。唱。教。梵。音。錫。杖。對。揚。

以。願。師。注。記。暨。者。讀。我。探。

小。唱。散。花。梵。音。錫。杖。對。揚。咒。願。

師。等。之。と。加。請。せ。被。可。也。

伶。人。舞。童。之。儀。式。殊。小。大。切。也。

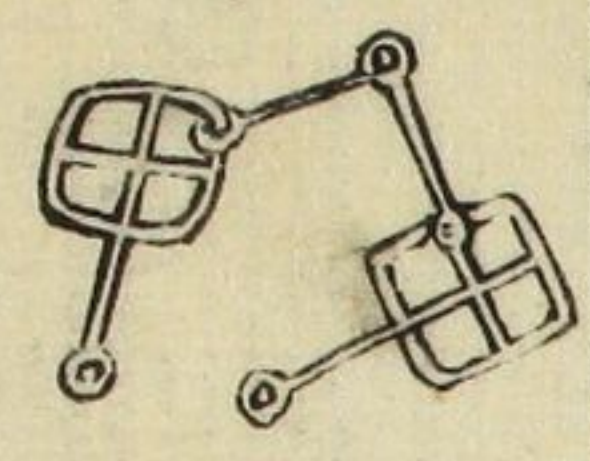
伶。人。舞。童。之。儀。式。殊。小。大。切。也。

伶。人。舞。童。之。儀。式。殊。小。大。切。也。

伶。人。舞。童。之。儀。式。殊。小。大。切。也。

法會の指南之
と先と爲用意
せし被可き物
者縁道の絹講
房の薦纒幕大
寶高座繪蓋瓔
珞如意香爐香
合白蓋赤蓋白拂
汰螺燒香造花
卓机臨時之纏
頭者左道之儀
也周章無

様兼日調へ置
被可き也心
事多しと雖紙
面限有り只御
意を得て認め
ら被可き歟委
細見參之時と
期一候氣忍
謹言



法會指南之爲用意之
物者縁道絹講房薦纒幕大
寶高座繪蓋瓔珞如意香爐
香合白蓋赤蓋白拂汰螺燒
香造花卓机臨時之纏頭者
左道之儀也周章無

被可き也心
事多しと雖紙
面限有り只御
意を得て認め
ら被可き歟委
細見參之時と
期一候氣忍
謹言

法會指南之爲用意之
物者縁道絹講房薦纒幕大
寶高座繪蓋瓔珞如意香爐
香合白蓋赤蓋白拂汰螺燒
香造花卓机臨時之纏頭者
左道之儀也周章無

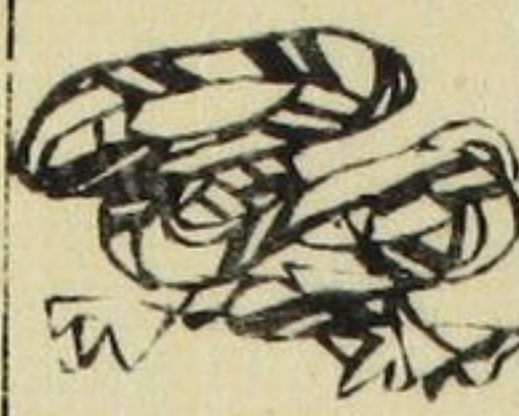
大形徽



和部糸



後部



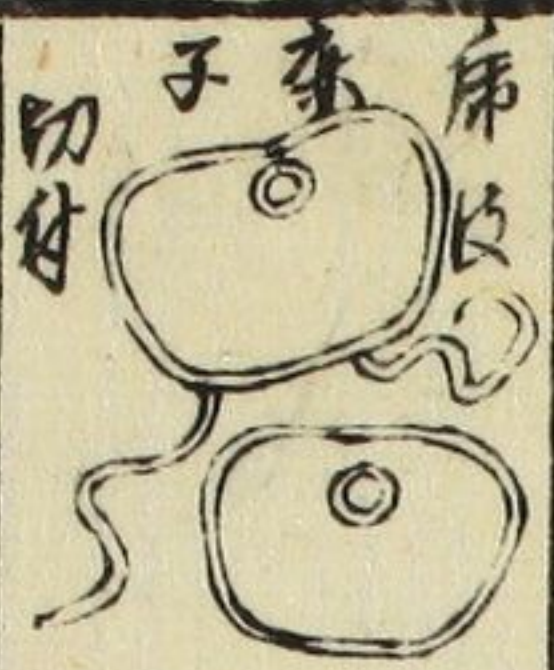
別部



九月の口

侍者

平の入道殿



入院新命退院

の西堂久相

者申さる之

間近日召請申

以可く候ふ次

且ハ着經の爲

法標の神目見しと云くハ一切法は法標に依りて成るなりと云くハ車ハ車ガと云くハ

古の二月の事申すも紙有波の事ハ人
意板中候侍せん

先づこれ法令に依りてハ多クハ痛歎ハ云ハクハ後ハ依りて成るなり

依りて成るなりハ依りて成るなりハ依りて成るなりハ依りて成るなり

先づこれ法令に依りてハ多クハ痛歎ハ云ハクハ後ハ依りて成るなり

先づこれ法令に依りてハ多クハ痛歎ハ云ハクハ後ハ依りて成るなり

九月日

侍者

平入道殿

平入道殿ハ九月十日の事申すも紙有波の事ハ人
意板中候侍せん

入院新命退院西堂久相

者申さる之

間近日召請申

以可く候ふ次

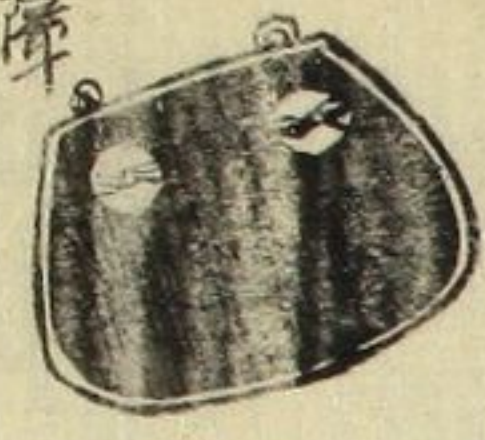
且ハ着經の爲

且ハ諷經の爲
大齋を行ハ令
む可く候ふ同
く者結夏以前
然る可き之時
分に候ふ

禪律の僧衆諸
寺諸社の聖道
は衆徒之と屈
請ゆる事小候
ふ但し時の點
心は作法贈物

布施は次第故
實無く候ふ調
菜之仁古老は
行者等の中器
用之仁定めて
存知せ令む
輿委細示し給
ふ可き也

水
粥
飯
尼
禪
家
者
堂
頭
和



去後夏公衆定時分
入院新奉
一古は後夏之

かろと此由何の人物小命を交て印をさしつとて入院西堂を爲
し給ふとて此由何の人物小命を交て印をさしつとて入院西堂を爲

●前後ハ結夏ノ一週ハ用此便ノ大亦ハ大徳を執りて秋ノ後
●後夏ハ正月十五日と七月十五日と結夏ノ事ハ九月十日を仰ふ也

禪律僧尼諸寺諸社聖道元

徒衆徒之と屈

請ゆる事小候

仁古老の者中

存知せ令む

輿委細示し給

不可き也

禪家者堂頭和

尚東堂西堂并

小知事方子ハ

都守監守副守

浴主典座直歲

都管都開修造

主堂主淨頭頭

百方小者前堂

後堂の兩首座

書記藏主維那

知客焼香の侍

者書狀請客湯

藥衣鉢等侍

者

腰

腰

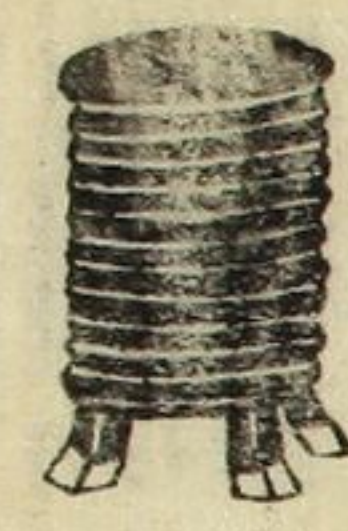
腰



袋



付



堂頭和尚東堂西堂並小知事方

都守監守副守

浴主典座直歲

都管都開修造

主堂主淨頭頭

百方小者前堂

後堂の兩首座

書記藏主維那

知客焼香の侍

者書狀請客湯

藥衣鉢等侍

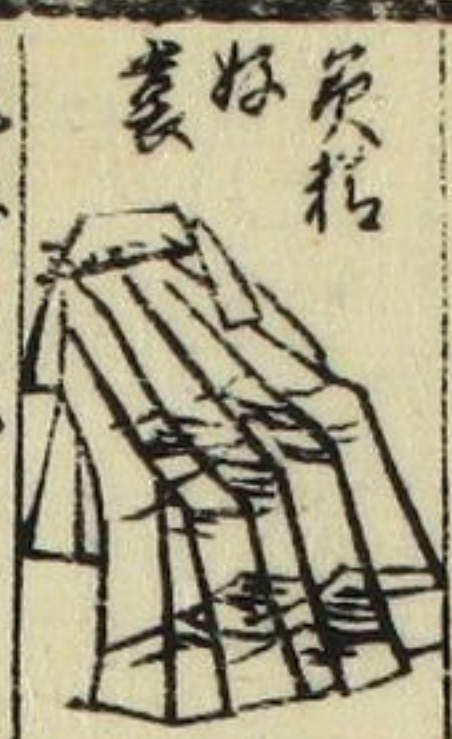
者

建州住持書法少

二七三

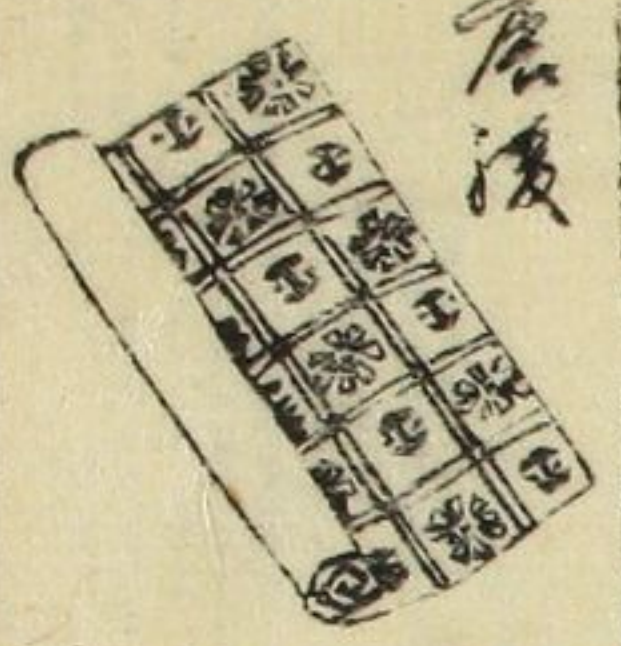


律僧者長老知事與座沙彌八齊戒の人工法師等也



聖道者一寺に檢校執行別當長吏學頭座主院主執當先達

阿闍梨法橋律師法眼僧都法印僧正山の目代小別當得業内供奉已講堂達預尊當當當都維那寺主上座以下承仕宮司等



下院一見取人の子孫を以て由緒の細くして一山に在るは山樹

概して其の老の口は門戸を以て其の出入を以て法僧者

長老。心奉。典。法。沙。彌。齊。戒。人。

法僧者。律宗の口は此の法僧者にして其の出入を以て法僧者

長老。有。檢。校。執。行。別。當。長。吏。學。頭。座。主。院。主。執。當。先。達。

頭。僧。正。院。主。執。當。先。達。防。因。

和。法。橋。住。持。法。眼。僧。都。法。印。僧。正。

目。代。小。別。當。得。業。内。奉。養。已。講。堂。

達。預。尊。當。當。當。都。維。那。寺。主。上。座。

以下。承。仕。宮。司。等。

律。僧。者。長。老。知。事。與。座。沙。彌。八。齊。戒。の。人。工。法。師。等。也。

聖。道。者。一。寺。に。檢。校。執。行。別。當。長。吏。學。頭。座。主。院。主。執。當。先。達。



和文書



和



目錄卷

掛布

新編



其外有職僧綱
の僧徒等猶以
禪家方者相伴
遷齊之僧倍堂
外僧堂の輩聖
道者從僧驅使
同朋推參之道
俗臨時之客人

新編

徳化之末夫の物造り西家より徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

徳化の末に及ぶに及ぶの末に徳化の務に及ぶに及ぶの末に

新編

新編

人数子任せ點
心といひ布施
物といひ臘次
と結し上下之
品と注し給ふ
可也



諸事御才覺之
外憑心所無

心底と貽さ不
之と示さ被者
尤以本望也象
て又先日申し
入る所之掛塔
の僧比事相違
無御許容小
願て候も者畏
と入て候ふ毎
事参入之次と
期に恐恐謹言

陸時客人役人教多其云布
施物紅臘次之儀以布也

諸事御才覺之
外憑心所無
と福とありけり
諸事御才覺之
外憑心所無

諸事御才覺之
外憑心所無
諸事御才覺之
外憑心所無

才覺之
外憑心所無
諸事御才覺之
外憑心所無

定川法華經註

乙二

方丈西堂者綾

紫の小袖一重

兜素羅青番羅

三沙紗額紋紗

花番羅并小黃

草布一二端上

品細美等知事

方者素紗梅花

并小襖單衫之

絹花結水綿等

各一配頭首方

首素紗の木架

裳平江帶各一

帽

此外帽子香襪
子杖杖脚榻手
巾布衫鉢盂巾
脚布筋匙刷糸

二匹紗。取のび紗。取のび紗。取のび紗。取のび紗。

草布。二福。素。細。尖。末。知。事。

方者。素。紗。梅。花。并。小。襖。單。衫。之。

絹。花。結。水。綿。等。各。一。配。頭。首。方。

素。紗。衣。裳。素。紗。裳。素。紗。裳。素。紗。裳。素。紗。裳。

方丈の西堂者綾。取のび紗。取のび紗。取のび紗。取のび紗。

素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。

素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。

素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。

素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。素紗の衣。

此外帽子香襪。子杖杖脚榻手。巾布衫鉢盂巾。

脚布筋匙刷糸。杖杖脚榻手。巾布衫鉢盂巾。

菜者織羅菊煮
漆の牛房昆布
擣布烏頭布荒

布黑煮の落筋
解無酢漬の茗

荷薦比子の悉
物茹物ハ茄子

の酢菜胡氏
甘漬納豆煎豆

茶巨園豆芥齋
差酢の和布青

苔神馬藻の曳

干甘苔鹽苔酒
煎比松茸平茸

の鳳煎等體不
隨て之と引く

可



不竹の之
菜者織羅菊煮
漆の牛房昆布
擣布烏頭布荒

布黑煮の落筋
解無酢漬の茗

荷薦比子の悉
物茹物ハ茄子

の酢菜胡氏
甘漬納豆煎豆

茶巨園豆芥齋
差酢の和布青

苔神馬藻の曳

干甘苔鹽苔酒
煎比松茸平茸

の鳳煎等體不
隨て之と引く

可

茶者織羅菊煮
漆の牛房昆布
擣布烏頭布荒
布黑煮の落筋
解無酢漬の茗
荷薦比子の悉
物茹物ハ茄子
の酢菜胡氏
甘漬納豆煎豆
茶巨園豆芥齋
差酢の和布青
苔神馬藻の曳
干甘苔鹽苔酒
煎比松茸平茸
の鳳煎等體不
隨て之と引く

茶者織羅菊煮

漆の牛房昆布

歎歎心料送て
進中者無
遮之御計ひ爲
可也所望
不依て粗之と
示以巨細相伴
小參せ令む
之時計ひ申に
可也恐恐謹
言



十月の日
衣鉢某甲
監守

此門持病再發
又心氣腹痛

去可滿者考たも討可便愛

程及之馬他春相は傍可計

也。海。也。 (Small text below: 此海は人...)

文 (Small text below: 此州の有大林の...)

意 (Small text below: 此州の有大林の...)

布... (Small text below: 此州の有大林の...)

十月の日
衣鉢某甲
監守

十月の日
衣鉢某甲

監守

此門持病再發
又心氣腹痛

虚勞等更發
 考以療治灸治
 の為醫骨之仁
 と相尋候上
 と難敷藥師等
 者間見來り歟
 和氣丹波之典
 藥ハ曾以逢ひ
 難く候ふ施藥
 院ハ察ふ然る
 可さ之仁有ら
 者舉達せし被
 可く候ふ也



針治湯治術治
 養生之達者殊
 小大切小候ふ
 此邊小候ふ輩
 者脚氣中國土
 氣頭風黃痢赤

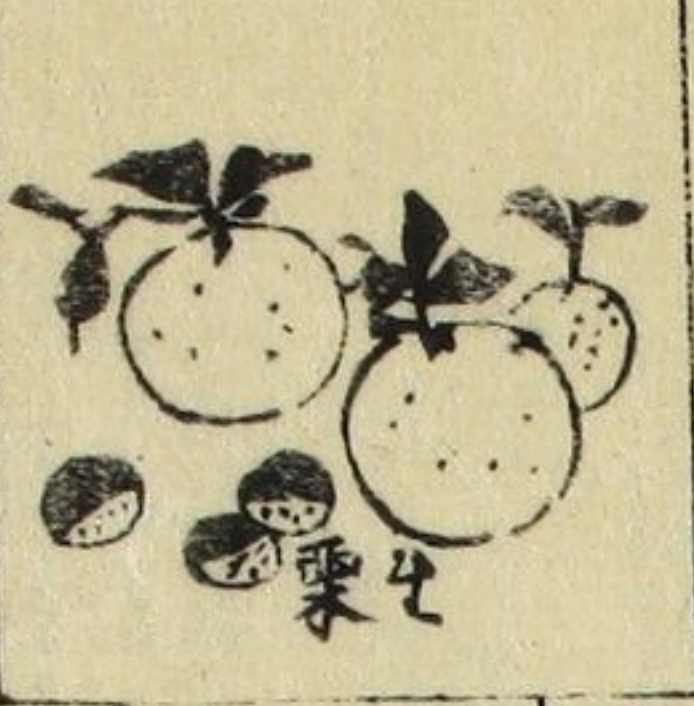
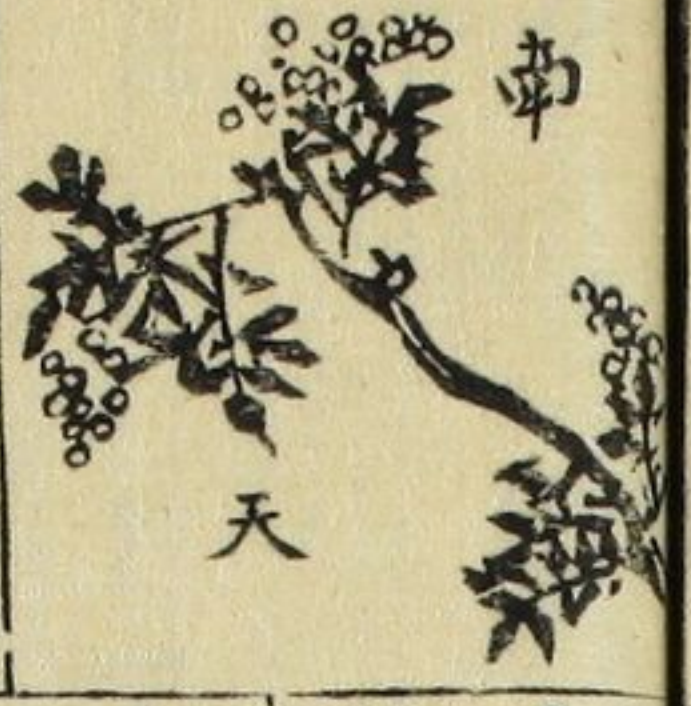
考以療治灸治
 相尋候上
 難敷藥師等
 間見來り歟
 丹波之典
 曾以逢ひ
 候ふ施藥
 察ふ然る
 之仁有ら
 達せし被
 候ふ也

去可氣氣をさる
 後痛ハ積聚の致して結中にて
 一筋糸脈ハ海運に寄るや
 先考ハ與業以て右南は左下
 胎氣院ハ一人候ふの業後
 此ハ
 針治湯治術

考以療治灸治
 相尋候上
 難敷藥師等
 間見來り歟
 丹波之典
 曾以逢ひ
 候ふ施藥
 察ふ然る
 之仁有ら
 達せし被
 候ふ也

去可氣氣をさる
 後痛ハ積聚の致して結中にて
 一筋糸脈ハ海運に寄るや
 先考ハ與業以て右南は左下
 胎氣院ハ一人候ふの業後
 此ハ
 針治湯治術

胸内痔内癰疔
 腫物癰病咳病
 疾齒膜等者形
 の如く見知て
 候ふ歟癰狂癰
 病傷寒傷風虛
 勞等者才覺無
 く候ふ



同く者構篋の
 合藥瀉藥補藥

胸内痔内癰疔腫物癰
 疾齒膜等者形の如く見知て候ふ歟癰狂癰病傷寒傷風虛勞等者才覺無く候ふ

方名を尋ふ人

上列の血運するものをもて... 胸内痔内癰疔腫物癰疾齒膜等者形の如く見知て候ふ歟癰狂癰病傷寒傷風虛勞等者才覺無く候ふ

同く者構篋の合藥瀉藥補藥
 用は構篋合藥瀉藥補藥

東川生薬書

百

等本方は任せ
名醫の加減と
以一劑と令り
之と服せ令り

んと欲は此條
尤本望也禁好
物の注文合食
禁此日記藥殿

比壁書小任せ
寫し給ふ可く
候ふ萬端筆と
馳せ難し併面

拜と期以恐恐
謹言

富士

吉往



十一月十二日
主税の助泰

茶の加減令り

飲入服之淋瀝也

受食禁食記

馬治方稿雜記

神也後也

一箇茶の病...

今年のも...

たる者...

又...

か...

此...

十月七日 主税の助泰

謹上
主計の頭殿



玉章と披と嚴
旨候親ひ御用
堅既分明也仰
の如く當道の
名醫者奔走有
る可也權侍

醫七邊より一流
の書籍と讀明
め療養共に名
譽に達者拔群
の仁候ふ

但一渡唐之船
中絶不依て藥
種高直之間大
藥秘藥者甚酌
の事候ふ和
藥と用ひ被

謹上
主計の頭殿

此は既候御用
原は倉御用
此は公御用
古來と云ふは

披玉章と披と嚴
旨候親ひ御用
堅既分明也仰
の如く當道の
名醫者奔走有
る可也權侍

仁候
玉章と披と嚴
旨候親ひ御用
堅既分明也仰
の如く當道の
名醫者奔走有
る可也權侍

但一渡唐之船
中絶不依て藥
種高直之間大
藥秘藥者甚酌
の事候ふ和
藥と用ひ被

謹上

謹上

者參サマぜゼ今イマむム可カ

五イ水スイ八ハチ草ソウ之ノ湯ユ

治チ風フウ呂ロ温オン泉セン等トウ

指サシせセ費ヒ無ム

候コトふフ



几キ房フウ内ノウのノ過カ度ド

濁ダク酒シュのノ酩メイ酊テイ睡スイ

眼メのノ昏コン沈シ行コウ儀ギ

はハ散サン動ドウ食シキ物モノのノ

飽ホウ滿マン所ショ作サク以イ辛シン

勞ロウ慙セン慕モ乃ノ辛シン苦ク

長チヤウ途トのノ窮キウ屈クツ旅リ

所ショのノ疲ヒ勞ロウ開カイ居キ

比ヒ勝シヨウ氣キ愁シュ難ナンのノ

勞ロウ傷シヤウ關カン之ノ大ダイ

食シキ深シン更セイのノ夜ヤ食シキ

五イ更セイ比ヒ空クウ腹フク鹽エン

增ゾウのノ飲イン水スイ淺セン味ミ

以イ熱ネツ湯トウ寒カン氣キのノ

薄ハク衣イ炎エン天テンのノ重チウ

眼ガン皆ガイ以イ禁キン忌キ之ノ

老ロウ今イマ余ヨ未ミ也ヤ

指サシせセるルとトをヲ可カらラるル一イチ和ワ美ミ

日ニチ本ホン比ヒ地チをヲ類レイ十ジュウ業ヤク終シュウりリ

抑ヨク又マタ春シュン魂コン相サウ推ツイ排ハイとトもモ一イチ公コウ室シツ首シュ南ナン艾アイ地チ車シャ不フ新シン其キ茶チャ每マイ

地チよりヨリあアつツくク海カイ中チュウ湯トウをヲ括クツク列レツ々々

凡マン房フウ内ノウ也ヤ者モノ

初ハツ念ネン托トク化カ海カイ以イ化カ辛シン苦ク慕モ

辛シン苦ク長チヤウ途ト窮キウ屈クツ旅リ

居キ勝シヨウ氣キ愁シュ難ナンのノ

食シキ深シン更セイのノ夜ヤ食シキ

水スイ淺セン味ミ熱ネツ湯トウ寒カン氣キのノ

重チウ衣イ炎エン天テンのノ重チウ

天テン氣キ未ミ考コウ一イチ和ワ美ミ也ヤ

采サイ木モク象シヤウ湯トウ浴ヨク

風フウ温オン泉セン老ロウ今イマ余ヨ未ミ也ヤ

指サシせセるルとトをヲ可カらラるル一イチ和ワ美ミ

凡マン房フウ内ノウ也ヤ者モノ

初ハツ念ネン托トク化カ海カイ以イ化カ辛シン苦ク慕モ

辛シン苦ク長チヤウ途ト窮キウ屈クツ旅リ

居キ勝シヨウ氣キ愁シュ難ナンのノ

食シキ深シン更セイのノ夜ヤ食シキ

水スイ淺セン味ミ熱ネツ湯トウ寒カン氣キのノ

重チウ衣イ炎エン天テンのノ重チウ

眼ガン皆ガイ以イ禁キン忌キ之ノ

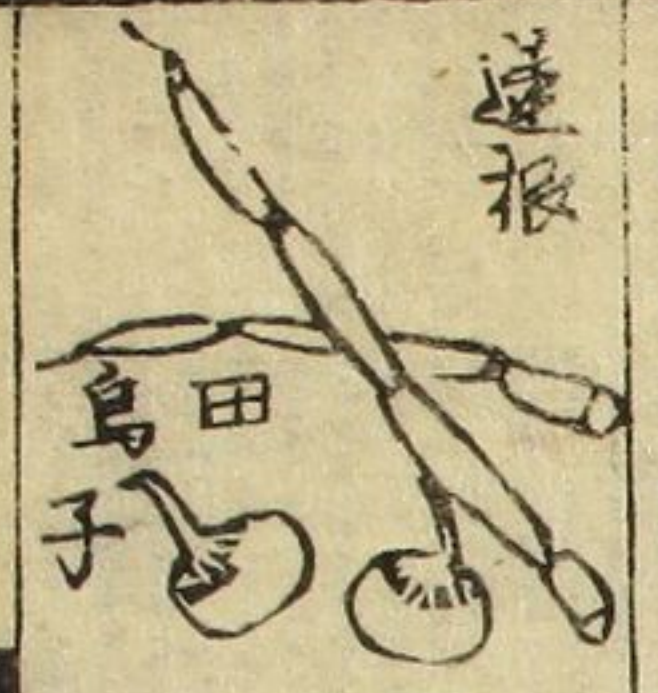
御任國之後鳥
免押移て遙小
面拜と遂げ不
之之間頗任日
之肥近と念る
るが如し隨而
御上浴之處音
信不預ら不候
ふ條密契其甲
斐無く隔心
至て憚存いと
雖試に推望い
及ぶ御氣色如
何
然ふ而國比土
産旅籠振い等
給ふ云ふ吟と
云い日と黙か
ること何比そ
平兼日示し給
と被者他行と
止む可し
且住國之間在
廳の官人等比

沙但國之後鳥免押移て遙小
至國持之間頗任日之肥近と念る
御上浴之處音信不預ら不候
條密契其甲斐無く隔心至て憚存いと
雖試に推望い及ぶ御氣色如何

然ふ而國比土産旅籠振い等給ふ云ふ吟と云い日と黙か
ること何比そ平兼日示し給と被者他行と止む可し
且住國之間在廳の官人等比

沙但國之後鳥免押移て遙小
至國持之間頗任日之肥近と念る
御上浴之處音信不預ら不候
條密契其甲斐無く隔心至て憚存いと
雖試に推望い及ぶ御氣色如何

所行府邊被官
此輩の形勢著
任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰



才覺の爲示
給ふ可也替
古比爲巨細奉
て度く候ふ何
様百謁と遂げ
心事啓達以可
也恐恐謹言
達振

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

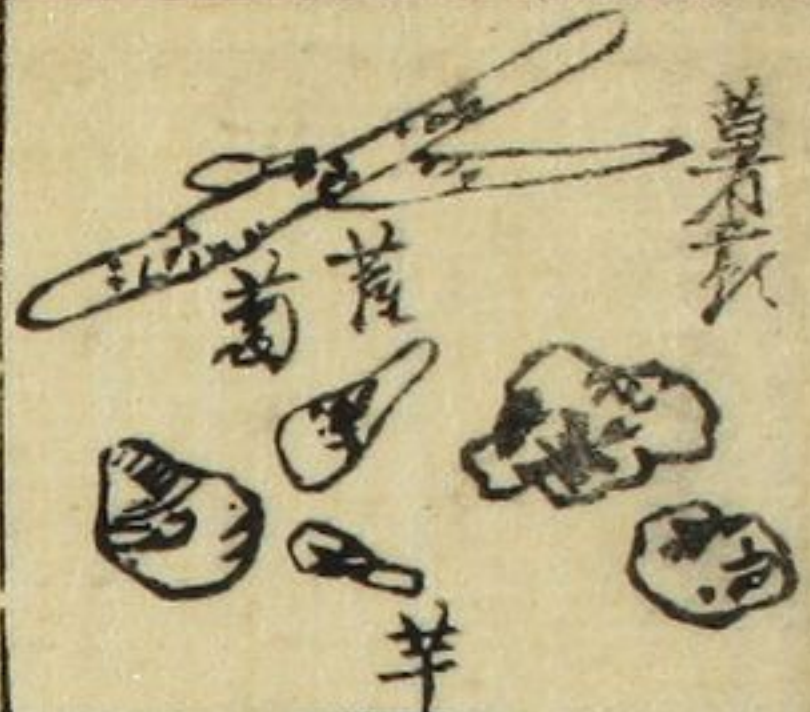
任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰

任著府此儀式
官使大奏の餐
膳厨此規式兩
櫛の細法郡司
判官代等の沙
汰



十二月三日
隼人の佐在原

謹上
越前の守致



御消息忽披脱
珍重珍重甚玉
珠と得るが如
一參拜と非
ん者之と謝
難、抑遠遠之
國朝音信と通
一難さくに依て
思ひ乍光陰と
馳け遺恨深重
也何の時々の
と謝せん即案

新居より、やまきりの枝葉、ゆえに、水たぐい、
くさるる、ふらふら、布を居合せ、
借作の、
たけ、

十二月三日 隼人佐原

律之越守致

越守、
ふらふら、
一布、
たけ、

御消息忽披脱
珍重珍重甚玉
珠と得るが如
一參拜と非
ん者之と謝
難、抑遠遠之
國朝音信と通
一難さくに依て
思ひ乍光陰と
馳け遺恨深重
也何の時々の
と謝せん即案

内と啓す可き之慶路次の疲勞長途に窮屈只忙然之外他無一恩問ふ依て驚る被る所也

入境著任之儀式著府吏務之洒儀ハ殊ナク子細無一在廳人等日並小出

仕て恒例奉行等閑無一概飯盛物積物以下時節の景物と盡一雜事の厨ハ種種比美物と調(廳庭)此經榮留守所の結構市次成(女)

國の邊行之事大介税所の番

他後員同不彼等五二浦長ノ書作ノ遠をく不修

入境此光陰ハ月日成ニ区トシ

若仁之儀式者府吏務法

儀者日子細也雜人春日並在

恒例等ハ委多閑抗版盛物

供物等ハ時節祭物雜事厨

御禮ノ次物盛任儀等所

儀者日子細也雜人春日並在

恒例等ハ委多閑抗版盛物

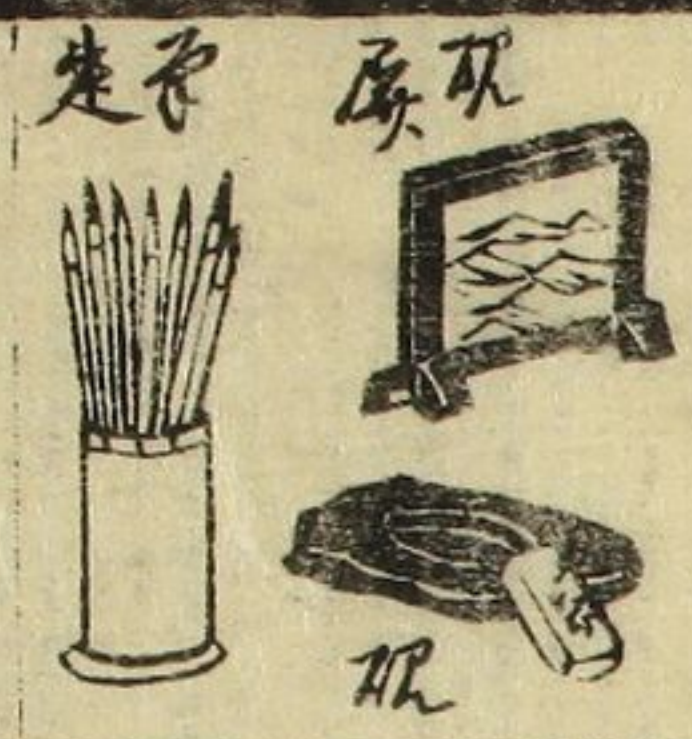
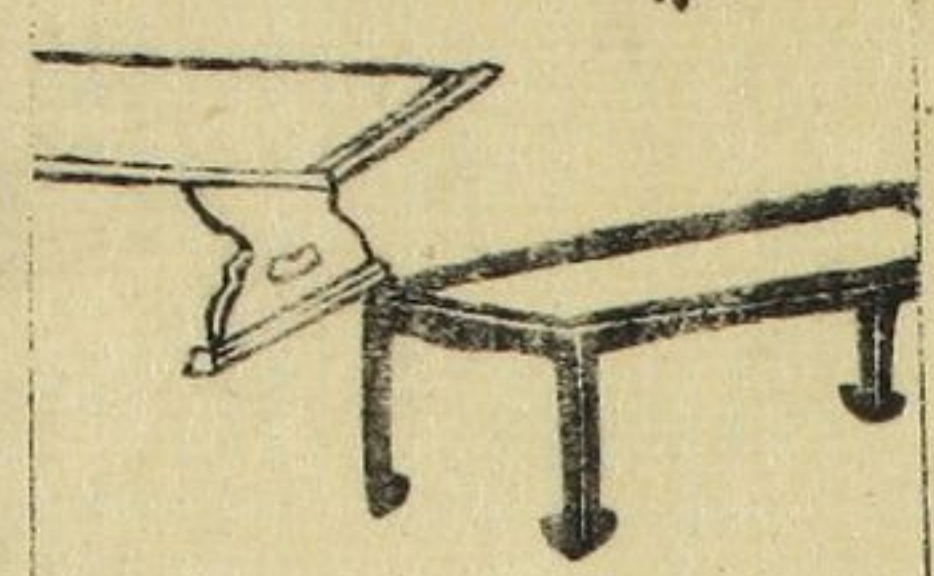
供物等ハ時節祭物雜事厨

御禮ノ次物盛任儀等所

國の邊行之事大介税所の番

記文書公文田
所結解勘定
書生判官代の
勘文覆勘郡司
權の守れ日記
目録國宰小目
代の催促此廻
文下司鄉司の
公事引付徴
使定使の給分
交分宛文名
主百姓に請取

返鈔臨時點役
の證跡



御服貢絹の調
進准絹準布の

後解勘定書生判官代勘定後

勘文覆勘郡司

目録國宰小目

代の催促此廻

文下司鄉司の

公事引付徴

使定使の給分

交分宛文名

主百姓に請取

返鈔臨時點役

の證跡

御服貢絹の調
進准絹準布の

齊例別納直進
比請文租穀租
米送狀納所
の卒法收納
納之濟期現物
色代之償來納
過上此準壞早
水比兩損八田
比不熟と檢
損凶之勘注ハ
散失と算用一
都合勘合一



聊其煩無一
加之諸寺諸社
の神拜宮宮比
奉敬寺寺比入
堂節節比法會
連連の佛事先
例と守と怠慢

海例別納直進法受租穀糶
送米納本率法收納徵納原
初理金受代償來納之と準
授年水支損括回不熟授之
勘注其用教失却合勘合新
室之

一年分此之法準授之と準
而之一年水支損括回不熟授之
社社法受租穀糶
節之法受租穀糶

無く候ふ也總
而異儀之黎民
無く而納法之
利潤莫大也難
溢之解保無く
而土貢之現利
巨多也萬事雅
意に任せ一と
而違亂無一心
事多しと雖紙
面小盡難
併後日と期以

恐恐謹言

未領



裳



惣



横尾



重く候ふ也。惣も事多し。未領候へ

黎民而納法之利潤莫大也。難

溢之解保無く。而土貢之現利

巨多也。萬事雅意に任せ一と

而違亂無一心。事多しと雖紙

面小盡難。併後日と期以

恐恐謹言

未領

裳

惣

横尾

本場は中より未領候へ。惣も事多し。未領候へ。黎民而納法之利潤莫大也。難溢之解保無く。而土貢之現利巨多也。萬事雅意に任せ一と。而違亂無一心。事多しと雖紙面小盡難。併後日と期以。恐恐謹言。未領。裳。惣。横尾。

未領

惣

横尾



十二月三日

越前の守磯部

進上
集人比佐殿



手紙の四枚を以て換むれば御座りませうと申すに
合して御座りませうと申すに御座りませうと申すに

御座りませうと申すに御座りませうと申すに御座りませうと申すに

御座りませうと申すに御座りませうと申すに御座りませうと申すに

十二月三日 越前守磯部

進上集人比佐殿

御座りませうと申すに御座りませうと申すに御座りませうと申すに

御森百人一首小倉集

大木

御森百人一首小倉集

日

御森百人一首小倉集

日

江戸馬喰町二丁目

東都書林



森屋治郎兵衛板

